

運輸及び交通委員會議録第二十五号

昭和二十三年六月二十八日(月曜日)

午前七時二十七分開議

出席委員

委員長 川野 芳清君
理事 前田 郁君 藤原 上善五郎君
理事 高瀬 傳君

出席政府委員

大澤嘉平治君 尾崎 末吉君
田村 虎一君 中野 武雄君
松本 一郎君 井谷 正吉君
川島 金次君 重井 鹿治君
島田 晋作君 館 俊三君
橋 直治君 原 龍君
矢野 政明君 飯田 義茂君
堀江 實藏君

出席國務大臣

運輸大臣 岡田 勢一君

出席政府委員

運輸政務次官 木下 榮君
運輸事務官 藪谷 虎芳君
運輸事務官 小幡 謙君
運輸事務官 石井 昭正君
運輸技官 田中 茂隆君
運輸事務官 橋本 政二君
委員外の出席者

職員

清利 三朗君
内海 安吉君
海野 三朗君
鈴木 善幸君
中村 卓君
岩村 勝君
專門調査員 堤 正威君
專門調査員 堤 正威君

六月二十六日

地方自治法第五十六條第四項の規定に基づき、海運局の増設に關し承認を

求めるの件(内閣提出)(承認第七号)

同月二十四日

横須賀線を三崎まで延長の請願(小暮藤三郎君外二名紹介)(第一五八七号)

運子駅に養老設置の請願(小暮藤三郎君外一名紹介)(第一五九五号)

今市、田島間鉄道敷設促進の請願(船田幸二君紹介)(第一六〇五号)

水福寺前に簡易停車場設置の請願(山本猛夫君紹介)(第一六〇六号)

山形駅始発上野行列車新設の請願(小野孝君紹介)(第一六〇八号)

二俣、佐久間間鉄道敷設促進の請願(竹山祐太郎君紹介)(第一六〇九号)

品鶴線に旅客電車運轉の請願(菊池義郎君紹介)(第一六一〇号)

二俣、佐久間間鉄道敷設促進の請願(神田博君紹介)(第一六四二号)

廣瀬、徳山間、廣瀬、下松間及び光線山間國營自動車運轉開始の請願(中嶋勝一君紹介)(第一六四三号)

日本藝術院員に長期鉄道乗車証交付の請願(明禮輝三郎君外三名紹介)(第一六五六号)

鹿兒島縣下各路線に國營自動車運轉開始等の請願(的場金右衛門君紹介)(第一六七一号)

飯田線の設備強化並びに輸送力増強に關する請願(吉川久衛君紹介)(第一六七二号)

天満、今福間電氣鉄道敷設認可の請願(細川八十八君紹介)(第一六七三号)

大浦、湯町間國營自動車運轉開始の

請願(周東英雄君紹介)(第一六八四号)

大垣、樽見間鉄道復活に關する請願(外四件)(大野伴哲君外一名紹介)(第一七〇一号)

終極線經由上野、青森間旅客列車運轉の請願(海野三朗君紹介)(第一七〇六号)

福島、米澤間電化促進の請願(海野三朗君紹介)(第一七二八号)

稻毛、喜波岡間間に停車場設置の請願(多田勇君外三名紹介)(第一七七六号)

二俣、佐久間間鉄道敷設促進の請願(堀井龜藏君外一名紹介)(第一七七七号)

旧小澤養老業並びに小澤運搬船業者を対象とする複數制実施の請願(山崎若男君紹介)(第一七八五号)

貨物運車輸送事業の所管に關する陳情書(若手縣鐵道局大澤川原小路若手縣小運搬組合連合会会長加藤友治)(第八九〇号)

福島、米澤間電化促進に關する陳情書(山形縣議會議長加藤富之助外六名)(第八九二号)

秋田、平石間養老開業鉄道敷設促進の陳情書(秋田縣議會議長京野孝之助)(第八九六号)

津山市上井町間國營バス、トラック路線開設促進の陳情書(岡山縣議會議長友保知)(第八九八号)

鉄道枕木に關する陳情書(北海道枕

木林養組合北海道森林組合連合会陳情書代表北海道紋別郡遠藤町熊澤秀圓)(第九二一号)

東北、北海道に省營バス増設の陳情書(第二十二回東北北海道各市議會議長会長引前市議會議長神山隆文)(第九四〇号)

福島、米澤間電化促進に關する陳情書(第二十二回東北北海道各市議會議長会長引前市議會議長神山隆文)(第九四二号)

鉄道運賃値上反対等に關する陳情書(値上反対市川地区市民大会外四千九百名)(第九五五号)

本日會議に付した事件

國有鉄道運賃法案(内閣提出)(第七七号)

地方自治法第五十六條第四項の規定に基づき、海運局の増設に關し承認を求めるの件(内閣提出)(承認第七七号)

請願

一 北海道植民軌道運管に關する請願(坂東幸太郎君紹介)(第七四三号)

二 米澤、野間間電化促進並びに教習、木ノ木間新線工事促進の請願(外八件)(坂東幸太郎君紹介)(第七六二号)

三 北海道植民軌道運管の請願(正木清君紹介)(第七七二号)

四 朱鞠内、羽幌間鉄道敷設の請願(坂東幸太郎君外三名紹介)(第七七四号)

五 羽幌、遠藤間鉄道敷設の請願(坂東幸太郎君外三名紹介)(第八〇〇号)

六 長坂村に簡易停車場設置の請願(淺利三朗君外三名紹介)(第八〇五号)

七 雄勝町大御所に救難所及び簡易燈台設置の請願(内海安吉君紹介)(第八〇七号)

八 高田、樽見間國營自動車運轉開始の請願(志賀健次郎君紹介)(第八一〇号)

九 鉄道用枕木割当に關する請願(野原正勝君外七名紹介)(第八二〇号)

一〇 徳佐、東森間國營自動車運轉開始の請願(坂本實君紹介)(第八五三号)

一一 帯底、山形國營自動車運轉開始の請願(松浦東介君紹介)(第八五四号)

一二 東京、鹿兒島間及び門司、鹿兒島間に直通急行列車運轉の請願(上林山榮五君紹介)(第八六五号)

一三 野村、中筋間國營自動車運轉開始の請願(井谷正吉君外七名紹介)(第八八七号)

一四 桑折、丸森間國營自動車運轉開始の請願(庄司一郎君外二名紹介)(第八九六号)

一五 日本通運株式會社庶務支店存続の請願(的場金右衛門君外二名紹介)(第九〇二号)

一六 撫養、相石間國營自動車運轉開始の請願(三木武夫君紹介)(第九二四号)

- 一七 興濱南線全通の請願(坂東幸太郎君紹介)(第九二六号)
- 一八 返子所在の「海の家」掘下に關する請願(小森藤三郎君紹介)(第九三三号)
- 一九 湯之元駅に急行列車停車の請願(的場金右衛門君紹介)(第九三五号)
- 二〇 幸山、大行司間鉄道敷設促進の請願(梅林時雄君外一名紹介)(第九三九号)
- 二一 札幌地区鉄道復旧計画施行の請願(推熊三郎君外二名紹介)(第九四二号)
- 二二 篠路、石狩太美西駅間に停車場設置の請願(推熊三郎君外二名紹介)(第九四三号)
- 二三 高瀬村に停車場設置の請願(岡司安正君紹介)(第九四九号)
- 二四 網走、米澤間電化促進の請願(海野三朗君紹介)(第九五六号)
- 二五 山形駅始発上野行列車新設の請願(海野三朗君紹介)(第九五七号)
- 二六 久慈、白山間及び久慈玉ノ湯間自動車運送開始の請願(山本猛夫君紹介)(第九七〇号)
- 二七 九州における鉄道貨物輸送強化促進の請願(田山松月君紹介)(第一〇〇四号)
- 二八 南福井停車場及び北福井信号所昇格の請願(坪川信三君紹介)(第一〇〇八号)
- 二九 上野、金澤間急行列車を米原まで延長の請願(坪川信三君紹介)(第一〇〇九号)
- 三〇 河守、宮津間鉄道敷設の請願(岸田均君紹介)(第一〇一〇号)
- 三一 武生より朝日、越前を経て三

- 國に至る路線を國營自動車道路に編入の請願(坪川信三君紹介)(第一〇一一号)
- 三二 明石、網子間電化促進の請願(堀川恭平君紹介)(第一〇二二号)
- 三三 板屋より高原、谷合、北山を経て岐阜に至る路線に國營自動車運送開始の請願(大野伴雄君紹介)(第一〇二七号)
- 三四 福岡、戸田間國營自動車運送開始の請願(志賀健太郎君外一名紹介)(第一〇三〇号)
- 三五 黒瀬駅に急行列車停車の請願(高瀬傳君紹介)(第一〇三三号)
- 三六 眞岡線を大子まで延長の請願(山口好一君外二名紹介)(第一〇五二号)
- 三七 茂木、笠間間國營自動車運送開始の請願(山口好一君外二名紹介)(第一〇五二号)
- 三八 宮古、小本間國營自動車運送開始の請願(鈴木孝幸君紹介)(第一〇七三号)
- 三九 青森、磐田間鉄道復活の請願(山崎若男君紹介)(第一〇七四号)
- 四〇 雄武村、上幌内間植民地道路敷設の請願(伊藤博一君紹介)(第一〇九五号)
- 四一 大子、戸尻間國營自動車運送開始の請願(山崎若男君紹介)(第一一八号)

この前資料の配付を受けておりました。この國有鉄道における輸送原価と運賃の割合が一つ、もう一つは國民の負担力と運賃の關係、この二つについて一應政府委員の所見を伺いたいと思ひます。

○穀谷政府委員 お答え申し上げます。御承知のように運賃政策といひましては、まず輸送原価から見た運賃がどうであるか、こゝういふことが第一。第二には國民の負担力があるかどうかといふことが第二。それに財政その他の政策的な考慮が加味されるわけでありまして、今お尋ねの第一点の、輸送原価に対する本年度の収支から見まして、もし旅客、貨物とも三倍半上げればどういふことになるかと、うお尋ねであります。まず國有鉄道の本年度の予算面から見た概数を申し上げますと、旅客につきましては原価に対する収入の割合が一・七九に上ります。貨物は〇・四六と相なりま

す。旅客の中でも定期は〇・五九であります。かようにある部分は原価を償つていないもの、あるいはあるものは原価以上にまわつてゐる場合がありますが、これを独立採算制の理想からいいますと、おのづかの旅客、貨物の部分に對して、まだ定期と定期以外の部分に對して、原価に近からしめるようにするのが理想でありますけれども、現在の段階においては急激な変更を避けるために、旅客、貨物を総合いたしました、なるたけ原価に近からしめるようにという方針をとりました関係上、今年度におきましては旅客、貨物併せて〇・九二となります。〇・〇八だけがマイナスになりますので、これらのマイナスにつきましては、先般も御報告の通り、一般會計から繰入れるというところに相なるわけでありまして、ただ貨物運賃はなるたけインフレーションのために低く抑へたのでありまして、これはその關係からいって、國策の線に沿つてやるのであるから、一般會計から繰入れるのが至当であるといふことが、原義主義からいつても一應言えると思つております。

次に第二点の國民の負担力について當局はいかなる基礎をもつか、こゝういふお尋ねであります。先般もお手もとに配りました資料から見まして、まず第一に總生産に対する貨物輸送費の割合であります。昭和十年で見ますと、總生産高は百五十五億、これに對しまして國鉄の貨物収入は二億四千万円でありまして、一・六%になります。これが今回の物價及び資金の改正並びに運賃改定後は總生産高におきまして、大体推算であります。一兆四千六百億、これに對して國鉄以外の全運輸機關の運賃を算術的に足しますと、八百九億といふことになりまして、その割合は五・五%に相なります。これを國鉄の貨物収入、三・五倍収入を三百二十億といたしまして推算いたしますと、國鉄だけの貨物収入が總生産高に占める割合は二・二%でありまして、戦前の十年に比してははや上つております。この程度ならば負担できるといふこと、こゝう思つてゐる次第であります。これに次いで、それは國民所得と貨物及び旅客の輸送運賃がどういふ比例になるかという問題であります。國民所得は昭和十年は百四十五億と推算されておりますが、これに對する國鉄の貨物収入の割合が一・七%であります。それが本年度の國民所得の推算が一兆九千六十億になつておりました、これに對する國內の總運輸機關の貨物収入の合計は八百九億と推算されますから、四・二%となります。その中で國鉄の貨物収入だけを取上げてみますと、三百二十億でありますから、全國民所得に對する割合は一・七%、すなわち昭和十年の安定時代と大体同じような比率が國民所得については見られます。國鉄の旅客収入については見ますと、昭和十年における國民所得に對する旅客収入三億の割合は、二・一%といふことになつておりました。今圓の物價、資金及び運賃改正後における比

例は三・九%といふことになりまして、これもパーセンテージは多少上つてお

ります。こゝういふことになりまして、こゝういふお尋ねは思つてゐるわけであり

ます。次に現貨の貨物運賃の物價に占

める割合、これを検討いたしましたところ、現在におきましては、主要品目

だけについて見まして、昭和十一年

度で申し上げますと、主要品目にお

ける貨物運賃の價格に占める割合は、四

六%であります。これが現行におきま

しては、一・三八、これを新物價対改正

運賃の割合を見ますと、二・七五

と相なりまして、まだ戦前の安定時代

に比しまして貨物運賃の比率が低いとい

うことがいえると思つております。

次に旅客運賃につきましてさらに他

の資料をもつて研究いたしました結果

によりますと、まず生計費に占める交

通費の割合であります。東京、大阪、

名古屋につきまして、内閣統計局が昭

和二十二年の七月から、二十三年の三

月までの生計費調査をいたしました結

果によりますと、これら三都市の平均

が總収入指数を一〇〇としたし、
て、食費が六七・二％、被服費が九・
二％、光熱費が五・二％、住居費が三・
四％、交通費がわずかに一・一％であ
ります。雑費は一四％となつて、この
雑費の文化費、あるいは娯樂費等が相
当の面を占めております。なるほど食
費については、職前よりは二倍程度の
増加をいたし、他に余裕のない、貯金
する能力のないような現状におきま
しては、交通費をなるべく低くすべし
て、娯樂費をなるべく低くすべし
て、このペースをたししたる高騰
はいたしません。それだけのものは雑
費の娯樂費等から流用できると思いま
す。これをさらに限定いたしまして、
今度の定期旅客運賃と、貨金の総額の
中から、特に貨金の基礎ベースをとり
まして比較をいたしますと、まず官公
吏についてみますと、昭和十一年度は
大体サラーは五十七円程度でありま
したが、これに含まれる旅客定期運賃
の比率はいかゞ、さういふ問題であり
ますが、まず一番利用の多い六箇月定期
についてはこれを申しますと、十一年の
ころは五・二七％であります。これが
今回の三千七百円の貨金に改訂され
三倍半値上げになることを仮定いたし
ますと、その比率が六・九七％となり
ます。一般工業労働者について考へま
すと、同じ六箇月の定期が、當時の七
十二円余りの貨金額に占むる一箇月の
平均の割合が四・一四でありまして、
それが今回の貨金及び運賃の改正によ
りますと、四・五五となりまして、お
のおの官公吏、工業につきまして、多
少は上つておりますが、この程度の上
りは十分な負担力があるとわれわれは
考へております。殊に定期の通勤費

は、金額会社もものものが現在約五
〇％あります。あと三〇％程度のもの
は、半分あるいは八割とか、いろいろの
会社によつて運主の方で負担するもの
部分のものは運主の方で負担するもの
が多い。この点につきましては、旅客
運賃とは言いながら、生産費に轉嫁さ
れる。すなわち貨物運賃の結果にな
るのであります。しかもこの旅客運賃
の中で、定期は御承知のように六割か
ら九割二分八厘程度まで非常な大幅な
運賃割引をいたしておりますが、これ
をさらに割引率を多くいたしますこと
は、さなきだに一般から定期旅客に移
動するもの増加が非常に最近顕著な
ものがありまして、國鉄の運賃収入に
大きな影響を及ぼすのであります。
いろいろの名目で定期客として滞つ
て、普通の旅客が流れている現状から
見まして、今回の値上げについても現
在通りにいたしたい、こゝろ存じてい
るわけでありまして、以上お答へ申し上
げます。

○高瀬委員 たいま察谷政府委員か
ら、原價と運賃との關係、あるいは國
民負担力と運賃との關係について詳細
な説明がありましたから、大体了承い
たしました。ただいまの説明から言つ
ても、やはり原價と運賃の割合から言
つても、國民の負担力と運賃の關係から
言ひまして、旅客と貨物と同一に上
げるといふことは、全然成り立たない
わけだと思ふ。さうすると結局現在
旅客と貨物を同じ三倍半上げると
いうことは、すなわち鐵道會計の收支
の計算からだけ論じているように思ふ
わけだ。さういふ点から言つて、む
しろ旅客運賃で貨物運賃をカバーする
という結果になつてきて、もしそれが

ために三倍半にしても出る赤字とい
うのは、嚴格に言つて貨物だけによつ
かけて補充しなければならぬ性質のも
ので、非常にその点が私は了解できな
いのです。だからただいまの説明によ
つて納得できない点がある。いわゆる
旅客と貨物と三倍半に同一に上げて、
むしろ旅客運賃で貨物運賃をカバーす
るといふふうにして、鐵道全体の收支
のつじつまを合わせるといふところ
に、今回の運賃上げの根本的な、お
れわれが納得できない点があるのでは
ありませんか、その点はいかがですか。
○察谷政府委員 高瀬委員の御説は一
應ごもつともあります。運賃の決
定にあたりましては、第一にコストか
ら見て適正であるかどうかを研究はい
たしまして、輸送原價の面から申さ
して、輸送原價の面からだけでは
決定いたされませんので、これに國民
の負担力、あるいは國家の財政、鐵道
の會計等の点を加味いたしまして、こ
の三者を総合的に加味してつくつたも
のであります。また先ほど申し上げた
ました通り、原價自体の旅客、貨物の
比率から見ても、理想から申せば
高瀬委員のようなお説は出ると思いま
すが、現在の段階におきましては、放
立採算制への一步を踏み出したとい
う点におきまして、旅客、貨物を総合し
て、なるだけ收支を償うように運賃の
倍率を決定いたして、かねて國民生活
の安定を期するために、國家財政との
関連におきまして、インフレ防止の立
場から貨物の運賃を三倍半に定めた、
さういふことであります。

○高瀬委員 この点は異なつた意見が
ありますが、盡きませんから、一應ご
の程度にいたしておきたいと思ひま
す。
続いて國有鐵道運賃法の條文につ
いて私は質問をしたいと思つてありま
すが、この前記に於いて察谷政府委員
から、この國有鐵道運賃法の改正の趣
旨並びに逐條の説明がありました。私
は大體國有鐵道運賃法というものが非
常に政治的意図をもつてつくられ、場
合によつては運輸大臣だけで、よろし
く運賃上げの本質的なところをやつ
てしまふ意図でもありはしないかと思
つて、非常にその点を心配しておつた
のですが、察谷政府委員の説明で、何
らの政治的意図も含まれず、すこぶ
事務的にこれがつくられていたこと
がわかりましたので、私は政府委員の
説明に対して非常に敬意を表すると
も、まず満足の意味を述べたいと思
つてあります。ただこのうちで運賃の
倍率の点は、おのずからわれわれの意
見がございまして、いすれ修正意
見を述べることいたしました。特に
第一條の第二項でありまして、前項の
運賃及び料金は、左の原則によつて、
これを定めるといふところに四つの條
項があります。つまり公正妥當なもの
であること、原價を償ふものであるこ
と、產業の発達に資すること、貨金及
び物價の安定に資すること、この四
つの原則の問題であります。これは
要するに、鐵道が國有であり、しかも
この鐵道を運営する人たちは、全部國
家の公務員であり、官吏であるとい
ふ観点から言ひまして、当然官吏の権
限からいたしまして、当然官吏の権
限であり、職務である國家に奉仕する
といふ観点から言ひまして、さうい
ふ四つの原則といふものは、國有
であり、しかも國家の官吏によつて運
營される國有鐵道である以上、當然こ
れらの原則が遵守されなければなら
ない、さう思ふのであります。アメリカ
のさうな鐵道で、それが全部私設鐵道
であり、しかもこの運賃が國民生活に
重大なる關係があるために、その運賃
を統制するときに、たとへば例のイン
ターステイト・コンポーシヤル・コン
ミッションという上のような機關によつ
て統制される場合には、さういふ原則を
掲げる必要もあろうと思ひますが、國
有鐵道において國家の官吏によつて運
營される場合には、これらの四つの條
項といふものは、當然官吏に課せられ
た職務であるから、國家に忠実なる職
務を遂行する場合には、當然さういふよ
うにやられるわけでありまして、さ
ういふ條文はぜひとも私は削除した
い。ほかの点は大同小異、多少の意見
はあるにしましても、これを譲つて第
一條の二項の四つの項目だけは、當然國
有鐵道である以上、しかもそれが國家
の官吏によつて運営される以上、必要
はない。さういふ見地から私はこの四
つの條文だけは、この法案から削除し
てしまふたい、さういふ意見をもち
てあります。これについての一應政府委
員の御見解を承つておきたいと思ひま
す。

○察谷政府委員 本法は大體財政法第
三條の施行に伴ひまして、財政法第三
條の特例に関する法律という法律に關
連して、今回提案いたしましたもの
であります。財政法第三條にも、國有
鐵道における旅客及び貨物運賃の基本
倍率、さうなつておりますが、嚴格に
基本倍率と申しますと、旅客、貨物の
單位當りの貨率だけをこの法律に規定
すればよいのであります。それが、それ
だけでは盡きない点がある。すなわち

これに関連して、しかも旅客、荷主に大きな關係をもつ基本貨率、これは鉄軌における基本貨率ではないけれど、この法律によつて民主的に御決定を願うといふ点におきまして、たとえば銀行料金とか、あるいは定期の割引率の最高をきめたりする、そうした点は政府といたしまして、相当民主的に規定を設けた次第であります。今高瀬委員の御指摘になりましたように、一條の二以外は非常に事務的に整へられた面が多いと思ひますが、一條の二項だけは非常に幅のある、味のある規定であります。まず第一の公正安当といふ点につきましては、対入割引をしない、貨物につきましては商標の條件の貨物ならば同一の運賃をとる、人によつて、あるいは会社によつてその貨物及び旅客の運賃に差等を設けないのだ、こういうことが公正の意味であります。また安当とは理論的に安当である、こういう意味でありまして、いろいろの角度から見まして理論的なもの、あるいは数字から見て理論的なもの、そうしたものを意味しておるのであります。負担力についてももちろんこの條項から見て公正安当でなければならぬ。こういうことに相なるわけでありまして、第二の原價を徹するものであること、今回の予算につきましても、原價の収入に対する割合から見まして、収入が原價を九三〇本年度の予算においては償つておりました、あと〇・〇八だけが赤になつておりました。これを一般会計から補充して收支の均衡をとつたわけでありまして、第三に運賃の差違に資すること、この点は高瀬委員もよく御承知のように、現在の貨物運賃につきましても、食糧政策

あるいは農業政策、産業政策、漁業政策あるいは工業政策、いろいろ貨物の運賃につきまして、貨物等級ともならみ合せて合理的に運賃を査定して産業の発達に資しているわけでありまして、第四につきましては、貴金及び物價の安定に資すること、これは御承知のように定期旅客の運賃につきまして割引をしたり、学生割引を定期よりもさらに現在におきましては三割方割引をしてゐる。こういった点から申しまして、運賃につきましても社会政策的な考慮はいたしてあるのであります。物價につきましても、先ほど御説明した通り、物價高騰を防ぐためになるため運賃の倍率を低目にしてゐるわけでありまして、かようにして――第三、第四は私鉄鉄道といえどもこの点は多少加味されますが、國有鉄道としましては、ぜひ第三、第四に重点を置いて運賃を決定する。コストを國有の負担力のはかに財政その他の國策の立場から決定せらるべきであるといふのが三、四の意味であります。かようにして、運賃の目標をどこに置くかといふことを理想としてここに掲げるべきであるといふ観点から、ここに掲げた次第であります。しからば現案はいかにどの程度はなりまして、これはあくまで原則でありまして、この理想に向つて、目標に向つて運賃制度が進められればなりません。敗戦の今日、また現在の日本の経済の事情から見まして、必ずしも十分にこれらの條件を充足しているとは申されません。しかしながらその方向に向つて努力はいたしておりました。今後におきましても、これらの四つの條項に対して、政治的にも、事務的にも

この目標に向つて進むというのが運賃政策上安当かと思ひまして、ここに一條の二として掲げた次第であります。○高瀬委員 ただいまの説明でありましたが、たとえば公正といふことは対入關係を考慮して善いであるのだ、それから安当といふのは、非常に理論的な立場から善いであるのだ、こう申されます。しかしこの安当であるといふことが、利用者にはあまり苦しくなく、運賃を上げる鉄道としては、値上げになつて利潤もあがれば結構であります。今はそれもあがらないで、一應經營を償ふような状態になればいい、こういうふうなことでないかと思つてゐる。そうならば、その次に來る原價を徹するものであるといふことは、当然安当といふ考慮のうちに含まれるわけでありまして、そういう点を一々私は論議しようといふのではないのです。國有鉄道の本質からいへば、鐵道が國有であるといふことと、それからそれが國家の官吏によつて經營されていくといふ、この二つの見地から第一項は要らないだらう。そうでないと、今までの國有鉄道の運営といふのは、すこぶるめちやに行われておつた。安当な原則もなければ、産業の発達にも資しない、あるいは貴金及び物價の安定にも資しないといふやうな状態で行われたのではないかと、いふやうなことになるので、國有鉄道の五十年、百年になるかどうか、私はつきり知りませんが百年近い、いわゆる國有になつてからの傳統といふものが、まるでここで再確認されたやうな状態では法律に出るということ、私はあまり感心しない。そういうやうな見

地から私は、この條文は要らないといふ見解をもつてゐる一人でありまして、これは私だけでもきまらないので、ほかの各委員の御意見もありません。私に反対の意見を表明してこの運賃法案に対する質疑を打ち切ります。○川野委員長 堀江君。○堀江委員 鐵道賃金値上げの問題は、同僚議員からいろいろ質疑があつたわけでありまして、まだ私として了解のいかぬ点は、物價の値上げによつてこの運賃を上げなければならぬといふことはもちろん了解がいくわけでありませんが、この運賃値上げの基本をなすものが、貴金においては三千七百円ベースをもつて打立てられてゐる。しかしながら三千七百円ベースなるものは、これは今國會の重大問題としていろいろ討論され、質問されておられます。安本長官や大藏大臣は各種の委員会において、これは堅持できるといふことを當つておられますが、加藤労働大臣は、これは千八百円ベースよりも、今回の物價の値上げによつて實質的な貴金の低下になるから、何とか補正予算において措置をとりたい、何とかやうな答弁をされたやうに伺つております。しかしながらその三千七百円ベースの問題は、まだ一番重大な要素であるところの米價がきまつておりません。御存じのように米價は千七百円の非常に低い米價であります。當然これが生産費を償ふところの米價に是正されなければならぬし、この問題については、衆議院の本會議において米價引上げを早急にきめる、そうして物價を上げてからの政府の手持しておるところの數量に対しては、農家に選

元すべきであるといふことが決議されております。この貴金ベースは、運賃値上げや何かの根幹をなす問題であるし、さらにこの三千七百円ベースについては、運輸省の管下であるところの國鉄労組においても、物價を値上げせぬ場合においても五千二百円ベースを要求してゐる。當然これは大きな労働攻撃の波が、この予算、この運賃値上げが通つたならば、起るということが予想されるのであります。そうした場合に、現在において國鉄への一般會計の繰入れは百億円であります。が、当然大きな赤字が出てくる、また國鉄は再値上げをするか、あるいは繰入金金を大幅に増すかといふこと、事態に立ち至ることは、火を見るよりも明らかであります。それで、運輸當局として、一般の物價値上げを安当と考へられるか。まだ米價がきまつておらぬ場合において、三千七百円といふものは全然砂上の樓閣にひとしいし、また物價の平均七割値上げといふものが、取引高税や何かの実施によつて起るところの物價値上げを考へて、ないといふ点において、すでに政府の予定の七割値上げといふものも、根元からぐらつてくるといふことが考へられるのであります。特に三千七百円ベースが運輸當局としては、國鉄の労組に対して堅持されるものであるかどうか。また三千七百円ベースの基本であるところの食糧品、特に米價の問題については、どういふふうにお考へになつてゐますか。過日この点につきましても、運輸大臣に答弁を求めたのであります。が、あまりまだ了解がいかない。また殊に三千七百円ベースの問題は、その後のいろいろの質問の経緯から見

て、私はまず納得がいかない。この運賃値上げというものは、単純に弱れるものであるというこの見解をもつてゐるものでありまして、これに對しての御答弁をお願ひする次第であります。

○木下政府委員 物價に關連して三千七百円ベース、この問題には非常に大きな問題であります。今仰せられた通り、もう少し結果になりはしないか、われわれもこの三千七百円ベースというものが、これで保てていくか、あるいはこのベースが破れるか、今の労働組合の言ふように五千二百円程度になるか、これは將來のことではよつと想像がつかませんが、現在においては安本長官や大藏大臣はこれをあくまで抑えていける、こういうふうには解釈しておられますから、大體運輸省としてもその線に沿つて運賃その他のものを決定していかねばならぬと思つております。ただ將來三千七百円ベースが破れた場合に、非常な赤字になるから、これに對してどうするか、その考えはどうかということの御質問でございますが、これについては、もしそういう場合には、何らかの——これは運輸省一省だけではありません。政府として何らかの処置に出るだらうというところは考えられる。あるいは追加予算を出す。何とかその処置をとるということも考えられるが、今日からその考えをもつて運賃を上げるといううなことは考へておりません。政府が、今の安本、大藏、物價廳その他の施策に伴つて、今回の運賃も上げるように止まつておりました、將來の、その場合には、この場合は、というところは深く考へておりません。ただそういう場合

には單に運輸省だけの問題ではありません。政府全体の問題となつてくるのでありますから、そのときにはそれだけの主務省が適當の措置をするだらう、ただそれに副つていけばよろしい、いろいろうに考へておりました。米價の問題もこれは農林省、安本の關係でありまして、運輸省としては、なるべく安くきめてほしい——なるべからうと、あるいは高くしなければならぬのだから、申すをきつて適當なところまできめていただきたい、こういう希望をもつてゐるのであります。

○堀江委員 だいたいの答弁によれば、三千七百円ベースなるものについては、御自信がないように拜聴したわけでありました。しかし非常なこれは大きな問題になるわけでありまして、ここにかりに政府原案のごとく三倍半の値上げを承認したとしても、それが確たることの自信がないような値上げをやることは、結局今日本の一番直面してゐるところのインフレを煽動すること、インフレを煽動することは、日本の経済再建を阻止すること、遅らかすことになるという意味において、われわれはこの運賃問題を非常に大きく見とおるわけでありました。いろいろ政府當局からの御答弁によると、なるほど他物價の値上げも、いはば低いかもしませんが、しかしながら運賃値上げがインフレの一つの口火になるというところは考へられることでは、自信のない値上げをやる、さらにはまた値上げをやるといふうなことは、今後の政

府全体として考へるべきであるという御意見に對しては、もちろん諒とするものでありますが、しかしただわれわれがここに考へなければならぬことは、日本のインフレの線を止めて、かといふ重大な問題でありまして、ただ國鉄の赤字をどうにか、それをもつて値上げをやるといううな安易な考へ方で、はたしてこの運賃問題を考へていいかどうか、またいろいろ討議がなされた上、さきにも御委員が私企業ではない、さきにも御委員が私企業ではない、さきにも御委員が四つの目的をもつておられるわけであり、この一つの目的である最後の四の資金及び物價の安定に寄與すること、これは重大な問題でありまして、

鐵道の運賃値上げの公議会におきましても、値上げが必ずやインフレの口火を切る、これによつて大衆の生活はますます苦しくなるということが大多数の意見のように拜聴したのであります。政府當局はもとと自信のある、つまりもう一つ、赤字の補填のことよりも、もつと根本的な國鉄の復興——國鉄が復興しない、非常に今乱雜な状態になつておられる。もちろんこれは戰災の影響その他からして仕方ない現状であるといふは、復興といふことを第一義に考へるべき段階であります。そうしたことによつて初めて産業の発展に寄與するところの國鉄が出現するといふうに考へるわけでありまして、今次官の御答弁によりますと、運賃値上げに對しては、はた自信がないように拜聴したのであります。私らの考へとしては根本的に他の物價との倍率がどうかという問題ではなくして、運賃値上げがインフレを促

進していくか、いかぬかということに重大な関心を寄せなければならぬと考へるわけでありまして。次官としましては、運賃値上げが他の物價の比率の問題でなくして、インフレを助長するか、しないかという点についての御見解を承りたいと思ひます。

○木下政府委員 たいへん問題が大きいといふのであります。ごつちかと言ひますと、われわれの管理以外の問題のように考へられます。むしろ關係はありますけれども、鐵道の値上げは單に赤字を補填するためのものでもありません。復興というところに非常に重きを置いております。でありますから、二十三年度において一億三千万の貨物を輸送する計画も立てて、實現しつつあるのであります。一方においてはダイヤを改正して運賃回数を増やし、一般國民の便宜をはかり、そういうことに力を盡しております。また運賃の値上げが物價騰貴の先端を行くというふうにも考へておりません。運賃の値上げのみが物價騰貴を誘引してインフレを助長するといふふうには私も考へておりません。それから、物價廳が主管でありまして、國の財政の方は大藏省がやっております。このたびの倍率その他の運賃も緊密なる連絡のもとに、物價廳、安本、大藏省、これらとよく詰合ひをしまして、これをきめたいわけでありまして、われわれとして今の段階では大藏省なり、安本なりが案を立てて、物價はこれであるといふ場合に、われわれがそれをやつていけなないといううな議論はいたしません。これは政府の一つの大きな方針を

立てられた以上、われわれとしてはその線に沿ひまして今度の運賃値上げを實行する、こういうことになつておりますから、この先どうなるかというところにつきましては何とも予断の限りではない。しかも御説のように、三千七百円ベースが破れて非常に國鉄が赤字になるという場合には、先ほども申し上げました通り、運輸省一省の問題でなく、政府全体の問題でありますから、政府の各關係者がこれに對して善処する。われわれはそういうふうにいいたしました、現在に即してこの運賃の値上げをしよう、こういう考へでありますからさう御承知願ひします。

○堀江委員 この三千七百円ベースの問題については、もちろん今御説明になりましたように、單に運輸省の問題ではありません。しかしながら、最低生活賃が維持できないという点は重大な問題でありまして、國鉄についてはいろいろの非難があります。労働生産性が低下したという問題は全國民としてよく認めておるところであります。このことが重大な問題でありまして、なぜ労働生産性が低下したか。また國鉄のみではありませんが、官業事業において、すべての官吏が腐敗墮落した傾向が多いという問題は、結局私はもうした公正妥當な資金を出さない、最低生活賃に足らないところの資金を支給してやるから、労働生産性が低下し、あるいは不正が行われるのではないかというふうな懸念しておるわけでありまして、あなたの管下であるところの國鉄の労組は五千二百円ベースを要求しておる。そしてその貫徹のためにはあくまでも闘つておられます。

一つの大きな現実であつて、將來の問題ではない。また、この統計は三千七百円、ペースはすでに破れたといふことをはつきり記録しております。この間に、國鉄当局として眞に國鉄を復興させるという考えがあつたならば、政府内部におきまして三千七百円ペースでなくして、最低生活費をまず從業員に與える、そうすることによつてのみ初めて國鉄の再建はあり得る、また労働生産性の向上もあり得る、そういうふうにして初めてこの問題は解決がつくと考えますので、さうした点については、ただ運輸省内部の問題でなく、これは安本や大藏省や政府全体の問題であるといふやうな責任轉嫁の態度をとられないで、ほんとうに國鉄を再建するという熱意によつて、政府内部においても、さうした不公正な賃金制度をまず打破するためには御努力願ひたい。これは希望であり、また、この運賃値上げの問題につきましても、他の物價と関連がある問題であつて、假定的に言いますならば、ある程度の物價値上げを承認するといふことになれば、當然國鉄の運賃も上げることが安当であると考へるものであります。私としては物價を引上げてはならない、物價を引上げることは日本經濟の破滅であるといふ点において、この運賃問題を考へておられるわけでありまして、これはまた討論のときにいろいろ見解を申し上げたいと思ひますけれども、さうした三千七百円ペースの問題につきましては、政府当局のうち特に一番大きな從業員を擁護しておられるところの運輸當局に善処方をお願いするとともに、從業員が眞に生活の不安を克服して國鉄の再建の

ために努力できるように、お願いしたい。この希望申し上げまして、私のこの件に関する質問を終ります。

○川野委員長 島上善五郎君。

○島上委員 第八條に關してちよつと御質問したいのですが、「國有鐵道の總収入に著しい影響を及ぼすことがない」といふその具体的な内容、それから「輕微な変更」といふその輕微とは一體どういふものであるか、ということをお伺ひしたい。國有鐵道の總収入に著しい影響を及ぼさないが、國民生活、特に業者の實際の生活の上に相當大きな影響を及ぼすという場合もあり得る。さういふ点をも少し具体的に伺ひたいと思ひます。

○穀谷政府委員 第八條の「運賃又は料金の輕微な変更」の内容は、災害の際に運賃の減免、学生兒童等に対する割引、団体旅客に対する割引、重貨車を使用するものに対する割引等のこととものであります。改正ではなく輕微な変更にも属するものであります。従つて國有鐵道の予算に対しては大きな影響を及ぼしませんので、また國民の負担につきましても、減免なり割引なりを主としておりますので、増徴するとかいふようなことは考へておりません。さういふ御承知を願ひたいと思ひます。

○島上委員 私はこの前にもお伺ひしたのですが、今堀江委員が言われたように、この運賃値上げがインフレに相當大きな關係があるといふこと、従つて國民生活に非常な大きな關係があるといふことはもちろんであります。さういふ観点から、この倍率については十分に検討しなければならぬと思ひますが、同時に國民の多数は、國鉄が

一日も早く復興再建して、以前のような快適な旅行ができるように、つまり國鉄の生命であります正確であり、迅速であり、かつ安全であるという國鉄の再建ができるかどうかということに對して、非常に大きな期待をもつておられるわけでありまして、さういふ点に對してもつとほつきりした自信のほどを國民の前に示すといふことが必要であると思ふ。特に私の強調したいのは、さういふような國鉄再建を実現するためには、從業員との協力關係といふものが一番大きな問題ではないかと想ふ。私はけさの新聞に出ておつたことについて、この機会に若干質問したいと思ふのですが、今度七月から新ダイヤを實行するといふことを発表されましたが、この新ダイヤ實行について、事前に労働組合との間に何らの連絡も協議も行われていなかった。それが組合はこれに對して事前に連絡協議が行われていなかったといふこと、従つてこの新ダイヤが労働強化になり、事故発生の原因になる、現在の入員だけではとうてい間に合わぬといふような点を強調しておるのであります。さういふことは事前に十分連絡協議がなされることが必要であると同様に、さういふような人員で一體間に合うのか、労働強化にならぬのかといふ点については、ほつきりとした当局の御見解をお伺ひしたいと思ひます。

○岡田國務大臣 回答申し上げます。新ダイヤの施行につきましては、立案いたしましたから今日までの間に、數回にわたりました組合側によく説明をして、大体組合側のと方しても了承をいたしておるものと考へておりますが、新聞によりますと、新ダイヤ

の施行に反對のような指令がなされたとかいふお話でありますので、ただいま当局が組合本部の幹部を呼びまして、その事実を確かめ申しております。大体お話のように國鉄の再建は從業員の協力が最も必要でありまして、私はそれを重視して今日までやつておるのであります。新ダイヤの施行といふことは、とりもなおさずこれは今日の生活の維持を打開していきまふこと、國鉄輸送力の強化という方向に向うのであります。これによりまして經濟の安定を策し、國民生活の困難を打開していくという方向に向いますので、國鉄從業員も少々の不自由があろうと、これに大なる協力態勢を示してくれれば、さういふことを期待しております。ただ人員などの点で、今日の場合にいたしましては、組合側が言われるだけの人員を即座に増員するといふことは困難であります。しかしそれは、仕事のできない程度は労働強化によつてやれといふものでは決してありませんので、具体的に言いますと、機關補助員が少いのであります。機關士の方が余つておるといふような場合には、余つておる機關士の配置轉換の意味におきまして、機關補助の仕事

に對してもいろいろなことは、今日の場合、組合としてもこの難局をお互いに打開したしめたため、われわれ民族の經濟的崩壊を防ぎましたために、協力をしてもらわなければならぬ問題であると思ひます。またこれによつて事故発生を云々されるのであります。事故発生といふことは機關補助士の仕事を、機關士に配置轉換的にやつてもらうといふことになれば、事故発生にはならないと思つて

おります。もし何らか政治的にこれを利用することになつて、故意に事故を発生せしめるぞといふやうな考へであれば、これはわが國家の再建のために全然受け容れられないことなのであります。さういふ考へで組合は言つておるものと私は考へておりません。大体よく了解してくれて、この國民的、民族的難局を乗り切りますために、配置轉換などに組合の考へが少し不満な点がありまして、これは協力してくれるものといふやうに考へておりました。組合側も十分に理解するやうにたゞいま懇談中でありまして、さういふ御答弁でしたが、一方の話をしたから、組合が了解してくるものといふやうに解釈することは、私は間違ひだと思ひます。経営協議会といふものもあり、新聞によりますと人事委員もあつたといふやうに出ておる。それが、せつかくさういふ機關があるものでありますから、そこで十分に協議して結論を出してから、実行にかかるといふ順序でいくべきではないかと思ふ。配置轉換といふことになりまして、當然そこに仕事上の變化も起るのですから、さういふ問題に關しては、労働組合との間に協議して行つていふことが労働協約の中にもあるはずだと思ひます。一方の話をしたから了解したものと解釈しておるといふやうな運む方では、今後他の問題に關しても決して圓滿にいくものではないと思ふ。國鉄労働組合といへども、國家のために、國民のために必要だといふことに対して、決して、反對するものではないと思ふ。今申しましたやうに、一方的に了解したものと解釈しておるといふやう

うな考え方では事を運ぶので、こういうふうになるであつて、私はそういう考え方を、ぜひともこの問題についても、今後についても、根本的に改めてもらいたいことを希望したいと思つて

それからこの第一條の二項の点であります。必要がないという御意見もありませんが、私は大した必要がなくて、どうしても削除しなければならぬといふことには考へておりません。しかしこの第一の公正妥當なるものであるといふことに対して、二、三、四といふものは、公正妥當なるものであるといふに解釈される。二、三、四といふものを置くといはしますならば、私はやはりどうしても、社会的な考慮を拂うことというふうな一項を入れる必要があるといふふうに考へるのであ

りませんが、せんだつての答弁ではどうもあまり抽象的であつてはつきりしませんでしたので、この機会に大臣の御答弁をお願いしたいと思います。

○岡田國務大臣 お答え申し上げます。「一」の公正妥當なるもの」といふものの中「二、三、四は含まれておるのではないかと、お説であり、また別に社会的政策的ものを明示すべきではないか」といふ御質問と思いますが、大体公正妥當なるものであるといふことだけでは、はなはだ抽象的に過ぎましておからぬことになりまして、二、三、四は具体的にこれを項目を現わしましたものでありまして、いずれもこれは「公正妥當なるもの」といふものと相並んで、非常に重要な具体事項を明文に現わしているわけでありまして、なお社会的政策的な意味といふことにつき

ましては、四の賃金及び物價の安定に密着すること」といふ中にもうたわれておるのであります。それをここにあらためて書きますことになりまして、非常にかまかい問題、社会的なものと何ぞやといふ内容の説明がまた必要になつてくるということにも相なりますので、私としては、これでは

のをお入れない方が、かえつて誤解を招かないものであると考へております。○高瀬委員 さいわい大臣が見えに

なりまして、二つばかり伺いたいのであります。実は先日新聞に道路運送法によつてつくれた地方の自動車事務所 道路運送事務所ですかの管轄する事項について、何か特殊な、臨時物資運輸調整法案によつて命ぜられた船舶の仕事以外のことは、地方廳に委譲するのだというふうな記事があつたのであります。その点について、いろいろ小幡局長にここで質問いたしましたところが、小幡局長は、全然そういうことは知らないし、もしそういうことがあれば、反対であるといふようなことを言つておられた感じが、その点について、政治的に関連なんかでそれだけ取扱われたのかどうか。またそういう事実があるかどうか。その点、願ひいたします。

○岡田國務大臣 お答え申し上げます。この新聞に出たおりました記事は、何ら論議された事実ではありませんが、これは若干間違ひだと思つておられます。ただ閣議で論じられたのは、國鉄といはしまして、特別会計と行政監督面を分離いたします方向から、道路運送監理事務所の仕事は今後重んぜればならぬ方向になつて

くる、その代りに、たゞいままでの地方鉄道局というの中からは、行政監督面が漸次取去られて、切り離されていくことになるので、今後大いに道路運送監理事務所を重視するといふ方向に向つていくつもりであります。ただ閣議で若干論議されたことは、地方出先機關の整理改良といふ一般論がらいたしまして、道路運送監理事務所の所掌事務のうちにも、地方に委譲してもよいと思われれるものは、今後研究してやる。その具体的問題は、たゞごく一部の人を選びます厚生車とか人力車とかいふような警車制のものも、いゝものは今後の研究の結果、委譲してもよいものがあれば、それらのものもいゝものはあれば、それらのものもいゝものはあれば、それらのものもいゝもので、具体的に決定はしてありません。

○高瀬委員 実はそういう問題について、この前道路運送法を規定しますときに、警車制のごときは當然委譲していいのではないかと、意見を大分われわれは論じたのであります。運輸当時は、どうしてこの道路運送の關係から、どうしてこの道路運送の關係から、どうして御承を承りたいと思つたわけでありまして、別に私はこの問題について反対するものではありません。ですから、伺つたのであります。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

○川野委員 ほんに質問はございせんか。

五十六條第四項の規定に基づき、海運局の増設に關し承認を求めた件を議題として、まず政府よりその趣旨の説明を聴取いたしました。木下政務次官。

○木下政務次官 これは法律でもございせん。地方自治法の第五十六條の四項に、地方に行政機関を設ける場合には、國會の承認を求めるといふ項目がありまして、それで國會の御承認を得たいと思ひまして、これを提案したわけでございます。

從來新潟、神戸、高松には海運管理部があつたのですが、新潟は御承知の通り、高松は四國、瀬戸内海、船積港の基地であつて、非常に重要な土地であります。また神戸は御承知の通り日本の貿易港として、日本の支関として非常に重要な港でありまして、海員組合なんかも神戸に本拠を置いてあります。でありますから、ほかの官廳なんかと衡衡のとれるように、新潟と神戸、高松の管理部門、名称を海運局といふ名称に直すのであります。これによつて人員を殖やすとか、予算がどうをとかいふ意味ではありません。たゞ名称を直すだけの簡単なことでありますから、どうぞ御承認を得たいと思ひます。

○重井委員 大体了解できるのです。海運局になるのであつて、機構は変らない、予算も変らないといふこと。しかしし局になる以上は、いろいろ機構の変更、あるいは局長、課長といふような關係の機構改革といふものがあるのではないですか。どうもこれまでも、そのときは大した變動はないと言ひながら、いふ／＼で上りますと、必ず人員を増員するといふような

ことになりまして、この際出先官廳はなるだけ縮小しようといふときでありますから、念のために懸いておきたいと思ひます。

○岡田國務大臣 重井さんの御質問はごもつともであります。從來往々にしまして、うまくその場を逃れておいて、あとから殖やすといふ疑いを受けておりますが、今回の場合に限りまして、全然さうなことはありません。職事中に特別によりまして船舶の運輸、あるいは造船の検査などにいたして、ほとんど職事中の必要に迫られて、無検査状態でも言ひました。それが今年昨年から職事中の特別を撤回いたしました。職前のように造船検査も、船舶安全検査も、それから海役、フリーボードの検査も復活いたしました。それから船員の取扱いにつきましても、もとより復活いたしました。相対に機構が変更されて、たゞいままにおきますでは、管理部門というよりも、海運局としての機構ができてしまつていくのであります。現在そのように運営をしております。とにかく名前だけかえるのであります。決して予算、人員、あるいは官吏の等級を變更するといふことは全然ございせん。

○井谷委員 この新潟、神戸、高松の海運管理部門を海運局に昇格する請願がございまして、その紹介議員には実は私がなつていくのであります。それで今重井さんのお話のような点が問題になつたのであります。この点は、ここに運びましたために、いろいろ當局ともお話しをいたしました。もういふことがないといふことが明らかになつてお

【なしと呼ぶ者あり】

りますし、また地方の海運の管理は海運局でなくてはならない、これは地方のこうした海運の仕事をいたす上において、非常な便利を得るわけであり、御賛同願いたいという趣意を兼ねて申し上げたいと思つております。

○福委員 先刻木下政務次官の御説明の中に、ちよつと誤りがあるように私に思つておつたのであります。新海運管理は日本全般的な海運行政をやつていくという御説明でありました、これは全然事実と相違をいたしておるのであります。私は日本にこれまでは海運局を設置してほしいという意見でおつたのであります、このたび新海運局が昇格するということとは、非常に結構なことだと思つております。新海運局の管轄は今私の聞き及んでおります点からいいますと、新潟縣と長野縣というふうに相なつておるのであります。この際当局におかれまして、真日本海運点という意味で、重点と申しますより、比較的に在来日本を離脱していったという態度を是正されます上から、もう一局設置を要望いたしたいと考えております。場所は伏木港であります。御承知のとおり、在来新海運は関東海運局の管下におりました。伏木港は東海海運局の管下におりました、どうして海運と陸運という面から考察をいたして、鉄道局の管轄内との緊密な折衝が要する必要があるから、私は伏木港を新海運局の管内に包括をいたしたいという御意向に対しては反対をいたしておつたのであります。御承知のごとく伏木港の周囲には七尾港、それから富山港というような重要な三

港があるわけでありまして、かつまた造船の面から考察をいたしてみても、日本海ドックを初めとして、奥能登一帯にわたります木造船の工場が非常に多くあります。どうしてもこの三港を管轄をいたしていく上におきまして、一方七尾港に海運局支局があり、伏木港にこれまた支局のあるわけでありまして、これらに御折衝なさる必要があるのではあるまいかというふうに考えております。この点に關しまして、当局の御考慮をお願いいたしたいという希望を申し上げまして、本承認を求むる件に對しまして賛意を表したいと思つております。

○岡田國務大臣 極力考慮いたしたします。

○川野委員 それでは本件を承認するに御異議ありませんか。

○川野委員 御異議なければさう決しました。

規則第八十六條により報告書作成の件は、委員長において作成するに御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○川野委員 それではさう決しました。

それでは午前の会議はこの程度にいたしまして、午後一時より開会することになりました。それまで暫時休憩いたします。

午前十一時四十六分休憩

午後一時四十八分再開

○川野委員 再開いたします。

午前引続き、鉄道運賃法案を議題といたします。高瀬傳君。

○高瀬委員 実は運輸大臣の出席を私は要求してこの質問をしたのであります。が、ただいま運輸大臣は何かの御都合でお見えにならないので、はなはだ遺憾に存じます。いずれこの点は運輸大臣からはつきり御答弁を願うことといたしまして、一應私の疑義のある点を伺いたいと思つております。さいわい木下政務次官がお見えになつておりますから、木下政務次官に伺いたいのであります。今回の値上げと関連いたしました、私設鉄道に対する運輸省の根本的方針がどういふふうになるか、これを申し上げます。たとえば運賃値上げをいたしますと、私設鉄道の方もこれに比例して運賃を値上げすることに相なるのだらうと思つておりますが、その際にも私設鉄道が経費が償われないという場合は、運輸省はこれに對して経費を補助してやる御方針であるのかどうか。その点を伺つておきたいと思つております。

○木下政務委員 高瀬委員の御質問ですが、運輸省としては國鉄の運賃を上げると同じように、私鉄の運賃も上げさせることになつております。そうしてなるべく私鉄の成り立つようにしてやる。こういう考えもつておられます。損がいくからとこれに補助するといふことは、その経営いかんにもよりますし、いろいろの意味合いから、運賃にすぐこれを補助するといふうまいにはまゝいりませぬけれども、なるべく營業の收支が立つて、そうして成り立つようにはしてやらなければならぬ、こう考えております。

○高瀬委員 そういたしますと、もし今回の運賃値上げが、政府の考えておられるように旅客、貨物とも三倍半になら

ないというふうな場合は、私設鉄道も思つたような運賃収入を得られない。そういう損がいくような場合は、運輸省は何か補助金でも、あるいは補助金でもお出しになるおつもりなんですか。

○木下政務委員 大体において、運輸省が提案しております今の倍率の程度まで、修正は仕方がないと思つております。運輸省も赤字を埋める財源がない、あるいは私鉄も成り立たぬというふうなことは、われわれも考えておられます。説明なる國會議員各位のことでありまして、それがうまく運営できるように決議していただければ、さう信じております。

○高瀬委員 私はその点は、木下政務次官はさうお考えになつておられるのであらうと、ただいまの御答弁ではつきり承知いたします。ところが、実は日本の日本経済新聞でございましたが、運輸大臣の意見が載つておりました。それは今回の運賃値上げの交渉と興業三派でやりました際に、社会党が二・五倍あるいは二倍というふうな、いろいろなことを論議した末、運輸大臣は二・八五倍を主張された。その主張された理由として、もしこの旅客運賃の値上げを二・八五倍にしないといふと、私設鉄道なり、あるいは客船、あるいはその他の運賃収入が非常に減つて、運輸省としてはこれに補助金をやらなければいけない。従つてどうしても二・八五倍以上にはこの倍率を譲れないといふことを言つておるのであります。これがはたして事實であるかといふことは、何のために鉄道は運賃を上げて、赤字を克服しようとしておられるのか、その企圖なり、ほんとうの目的が非常に不明

になつてくるわけでありまして、私鉄はどうしても救済する、あるいは客船はどうしても救済する、その目的のためには國民が困らうが、あるいは物價が上らうが、インフレが増長しようが、そんなことはおれはかまわないのだ、とにかく二・八五倍に運賃を上げれば、客船も困らないことになりまして、私鉄も旅客に關する限りは経営に困らない。こういうことになつたので、それこそあれが言つたように、運輸省は独立採算制というものを盾にとつて、國民をこの独立採算制のモルモットにするのだ、こういうふうなやつてしまつておられる、われわれ國民は、何も運賃の試験台になつて、モルモットになることはいらないと思つております。でありますから、この運賃値上げをどういふふうな意圖のもとに運輸大臣は考へておられるのか。実はぜひとも運輸大臣の御出席を願つて、その御見解を伺いたいと思つておりますが、さいわいに交通運輸に非常に関心深い木下政務次官がおられますから、まず運輸大臣がいつかここにおいでになつたときに御答弁を願ふことといたしまして、木下政務次官のその点に對する御意見をひとつ參考のためには拜聴しておきたいと思つてあります。

○木下政務委員 私新聞を見ておられますから、詳しいことは存じませぬが、二・八五倍でなければ、海運の客船の方も、私鉄も非常に赤字になるといふことは、これはさつと考へても、さういふふうなことになるのではないかと考へます。けれども運輸大臣がそれを補償しなければならぬから、二・八五倍は譲れないといふことを言つた

○高瀬委員 そういたしますと、もし今回の運賃値上げが、政府の考えておられるように旅客、貨物とも三倍半になら

ないというふうな場合は、私設鉄道も思つたような運賃収入を得られない。そういう損がいくような場合は、運輸省は何か補助金でも、あるいは補助金でもお出しになるおつもりなんですか。

というふうに、高瀬委員はおつしやい
ますが、私はそれは信じられない。こ
ういうふうになるといくらいいのこと
を言われたのではないかと思うのであ
ります。決してわれ／＼は國鉄の運賃
を値上げして、それでもつて國民をモ
ルモットにするというふうな考えは毛
頭もつておりません。またいろいろな
方面から総合いたしましたして、二・八五
倍というものはほんとうの最低の値段
じやないか、こういうふうに考えてお
ります。群しいことはいづれ運輸大臣
からお答えすることと思いますが、私
としてはこれだけをお答えしてしま
す。

○高瀬委員 どうもその点、私はけさ
運輸大臣がお見えになつたときに聴き
たいと思つたのでありますが、腑に落
ちないので、重ねてたゞいま何うわけ
でありますか、運輸大臣がお見えにな
りましたら、ぜひこの点について御答
弁願うことにいたしました。私は一應
その点に関する質問を打ち切りたく思
います。

○川野委員 ほかにも御質問ございま
せんか。—なければ、次に請願に移
ります。

○川野委員 くれより五月十二日、
十四日、十八日、二十日、及び二十八
日、それ／＼本委員会に付託されまし
た請願四十一件を議題といたします。
なお本日は審査のみに止め、議決は後
日に譲ることとして、紹介議員の都合
により、日程第三八、宮古、小本間國
營自動車運輸開始の請願、鈴木善幸君
紹介、文書番号第一〇七二号を議題と
し、紹介議員鈴木善幸君の説明を求め
ます。

○鈴木善幸君 本請願は、省線宮古駅
と省線小本駅をつなぐ國營自動車の運
輸開始の請願でございます。この路
線の運輸開始の問題は、宮古市、崎
山、田老小本沿道各市町村の多年に
わたる要望でございます。今回の請
願も宮古市長以下約三千名にわたる連
署をもつてお願いいたしておる問題で
ございます。

宮古、小本間は御承知のように、今
日まで海運以外には運輸の便に恵まれ
ておりませんのでありますが、この沿
線には木材、薪炭、最近におきまして
は戦後水産業が非常に盛んになつてま
りまして、また大理石その他の地下
資源も相当あるでございます。なお
この沿線では学童の通学のために非常
に不便を感じておるのであります。非
常な最近には主食の輸送あるいは漁業用
資材の輸送等、沿線の住民は非常に困
難を極めておりました。わすかに海路
聯絡の際に、一日一往復ないし二往復
程度の連絡船によつて、その連絡をい
たしておる。こういうような非常に恵
まれない事情下に置かれておるわけに
ありません。もしもこの路線が皆様の御
同情ある御審議によつて開通いたしま
すれば、さらに沿岸の産業の勃興、文
化の振興の上にも資するところが非
常に多いのであります。さういかにし
て小本、宮古間は省線が来ておりました
ので、わすかにこれをつなぐ十数里の間
であるわけでありまして、先般政府は縣
下の私營自動車の路線を買収されました
て、國營として經營されておるのであ
ります。この宮古、小本間だけが取
残されておりました。現在運輸當局に
対する報告には、縣北自動車会社がこ
の間を動かしておるよう報告されて

おるのでありますが、現実には定後自
動車が一日に二往復やつておる程度で
ありまして、ほとんど旅客、貨物の輸
送は休止いたしておるのが現実ござ
います。以上のような状態でありまし
て、沿道住民といたしましては何とか
してこの省線開通をつなぐ路線を開始
していただきましてを非常に願ひ
いたしておるわけでありまして、何とぞ一
日も早く御調査いただきまして、この
地底民の熱望の実現いたすよう願ひ
いたしたいと思います。

○川野委員 次に政府側の説明を聴
取いたします。

○小幡政委員 お答えいたします。こ
の路線につきましては、よく事情を存じ
ております。三陸沿海地方の開港のた
め、殊に林産、水産その他の地下資源
に恵まれておりました。この地方を開港す
るといふ見地から見ても、また一
方交通系路上の見地から考えましても、
私も、重要な路線であるというこは、
私も、重要な路線であるというこは、
私どももいたしましてよく存じてお
るところであります。國營自動車をご
れに運行いたします件について、仙台
の鉄道局に命じて現地の調査をさせた
のであります。現に昨年十二月の終
に小本駅の改造時にもよく調査をいた
させました。その当時は一部道路は
改修中であるという承知いたして
おるようなわけでありまして、そのよ
うに私どももいたしまして、この路
線の重要性はよく存じております。し
なるべく早く御希望に副うよう努力
いたしたいと考えておるのであります
が、御案内の通り予算、資材その他
の事情にありまして、早急に実現
を見ることは遺憾ながら困難ではない

かと考えておる次第でございます。
○川野委員 本請願に対し何か御発
言はございませんか。—なければ、
次に移ります。

○川野委員 次に日程第三五、黒磯
駅に急行列車停車の請願、高瀬傳君紹
介、文書番号第一〇三三三号を議題とし、
紹介議員高瀬傳君の説明を聴取いたし
ます。

○高瀬委員 本請願の要旨は、栃木縣
の那須郡の黒磯という町があります
が、これは最近非常に商工業が発達し
たしまして、栃木縣の北では重要な町
の一つになつております。しかもその
奥地には板室温泉、那須温泉というよ
うな優秀な療養地があります。日光
地の入口としても非常に價値のある駅
であります。なお同駅には夏になりま
すと、天皇陛下を初め各皇族の御降臨
が非常に多いのであります。そのた
め乗客も非常に多い次第でありま
す。従つてこれらの種々の理由から、
当駅には東北線を往來する急行列車が
当然季節以外にも停まるようになり、
乗降客の便宜をはかつていただくた
い。ただいま時刻改正になつて、急行
が當分の二本だけ季節的に停まる
ように私は承知いたしておりますが、
それではどうしてだめなのでありま
して、一年中夜分の急行も、上り下り停
まらないのがまだ二本あると思いま
す。さういふようなものも含めて、せ
ひ年間を通じて急行を停めていただき
たい。これが請願の趣旨であります。
毎分よろしく御審議の上御採決のほど
をお願いいたします。

○川野委員 次に政府側の意見を聴
取いたします。

○石井政府委員 黒磯駅に急行列車を
全部停車させるとのお話でございます
が、黒磯駅はこの附近の急行停車駅の
宇都宮、西那須野、白河に比較いたし
ますと、きわめて少数の乗降人員で
ございます。また西那須野、黒磯間は十
一キロ五分という区間でございます。
で、全列車の停車につきましては少し
無理ではないかと考えております。た
だいまお話しもございましたように、夏
季中きわめて旅客が多いと思われま
すときに、晝間の急行を停車させるとい
うことで実施の準備を整えております
から、御了承願ひたいと思ひます。

○高瀬委員 ただいま政府委員の御説
明であります。急行を停めれば停め
るほど、お客が多くなるのであります
から、今少いで停まらぬといふのは、
まづたく戦争前の観念であつて、
戦争後の民主主義になつた今日では、
私どもには通用しないのであります。か
ら、どうかその辺を十分御了承の上
で、御当局の方でも願ひしたいと思
うのであります。

○川野委員 本請願に対し、何か御
發言はありますか。—なければ、
次に移ります。

○川野委員 次に日程第二四、福
島、米沢間電化促進の請願、海野三朗
君紹介、文書番号第九五六号を議題
とし、紹介議員海野君の紹介説明を聴
取いたします。

○海野三朗君 福島、米沢間の板谷の
トンネルであります。あつては煤煙
のために今まで騒音して死んだ者が、
この前にも報告されました通り七、八
名に及んでおります。また煤煙工事で
あるので、電化されていないものであり

九

ますから、石炭をたいて通るために輸送力が非常に劣つておる。こういうことで、日本の開発、すなわち日本の宝庫であると考えます。地方の開発ができない、その第一は、まず煤炭であります。

（委員長退席、島上委員長代理着席）

次に食糧及び炭であります。そういふふうなものが十分に運ばれません。今ここに具体的に例を申し上げます。三箇月分の煤炭が今山元と、それから鉄道の駅に山と積まれておるわけでありまして、ただいまも六万トンからのものが輸送不能の状態になつておるのであります。これを全國の煤炭の現状から見ますと、特に東北中でもわけて山形縣、秋田縣をつなぐところのこの板谷の問題がここにひつかつておるために、こういうふうになつておるのではないかと考えます。もう一つは某方面の關係があるということも、鉄道御當局から、過日の石炭調査會議のときに御答弁がありました。その方面の關係の貨車のこと、計算にお入れになつておかなければならぬ、ではないか。貨車がないから、お前の方は運ばれない、いやないかといふことは、どうして納得がないかないのでございませう。それで煤炭、食糧の問題にしましても、まことに運ばれざる地方であります。米の生産供出から申しますと全國第二位を占めております。税金の収まることから考えましても、全國第二位の好成績を収めております。駄々として働いておる運送がちな東北人の氣持をよく御了解くださつて、速やかにこの専ら工事を促進していただきた

いというものがその趣旨でありまして、この板谷電化のことにつきましても、どうぞ當局の誠意ある御答弁をお願いする次第であります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○田中（内務）政府委員 答へ申し上げます。奥羽本線福島、米沢間は電化すべし。特殊区間といつたしまして、昭和二十一年十一月に着手いたしました。その後工事も順調に進んでおります。現在六分通り竣工しております。ところが今年度になりまして万々を得ない事情のために工事の中止を命じたような次第であります。しかしながらこの電化は多年の懸案でもありますし、省としてぜひやりたいという希望もつております。また地方の皆さんの御切望も非常に強いのでございまして、われわれはこの電化の工事再断といふことについて、努力をいたしまして、できるだけ近い将来に工事を継続するよう努めたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に関して何か御答弁はございませんか。――なければ次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第二十五、山形縣始発上野行列車新設の請願、海野三朗君紹介、文書表番第九五七号を議題にいたします。紹介議員海野三朗君の説明を聴取いたします。

○海野三朗君 東北の方にまいりますには、殊に秋田方面にまいりますのに、秋田行の急行を利用してあります。が、上野発の秋田行急行は乗客が非常に多くありまして、容易なことでは乗れない状態であることは、御当局すでに御

承知のことであると思ひます。他の急行などと比較してみますと、その点が非常に違ふと思ひます。特に秋田縣、青森縣、岩手縣各縣とも、縣廳所在地の駅からは、ことごとく始発の列車が出ておるのであります。山形だけはこれに恵まれておられません。従つて山形からの乗客が非常に多くあります。上野に行つてやみの急行券を買つたのに、突如三等で三百円という状態にございまして、これを乗客を殺すの意図において、鉄道料金が同じなのにあります。税金もひとしく納めておるのであります。何となく山形始発の上野行の列車を新設していただきたい、と申しますのが、山形縣民一同の御願ひであります。どうぞお願ひいたします。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 答へいたします。ただいまの石炭並びに車輛の事情からいたしますと、山形始発の上野行列車を新設いたしますことは、困難であらうと思ひます。しかしながらお話しにございまして、ただいまの奥羽線列車は非常に混雑をいたして、御不便を感じておられる実情は私も十分承知いたしております。で、今般七月一日の時刻改正からは、山形発上野行の急行に限りまして、これを山形発の時間を変更いたします。御利用のしよしい時間に改めますと、二等、三等車二輛を山形から増やしたことにいたしました。御便宜をはかりたいと思ひます。もつと御便宜をはかりたいのでございまして、現状ではそれ以上のご希望はたむずかしい状態でありまうので、しばらくその程度

で御辛抱願ひたいと存する次第であります。

○海野三朗君 ただいまの御答弁を伺いたしました。あの線だけがあれほどごまなければいけないということ、どうしてそれにわれわれが満足しない、どうも御答弁をお願いしたい。そうして一言御答弁をお願いしたいと思ひます。山形縣民にこれを傳へたいと思ひます。から、そのでございまいとところを伺いたいと思ひます。

○石井政府委員 先ほどお話しにございまして、奥羽線の線区の輸送のきわめて隘路となつておるのでございまして、あの区間の電化工事がございまして、かつ列車の牽引輛数も増すことが出来るようになります。奥羽線から東北線には、いりませう列車輸送の緩和も相当できるかと思ひます。ただいまは道にあの区間の工事中のために、今回の時刻改正にあたりまして、あの区間を通る列車を増すわけにはいかないといふような状態にございまして、しばらく御辛抱願ひたいと存する次第であります。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御答弁はございませんか。――なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三一、野村、中筋間自動車運輸開始の請願、井谷正吉君外七名紹介、文書表番第九八七号を議題とし、紹介議員井谷正吉君の説明を求めます。

○井谷正吉君 菅野自動車野村駅より中筋村に通延延長の請願の要旨を申し上げます。元來この線路は宇和島市と松山市とを結ぶ幹線でありまして、その最短距離に位しておる、またその心

腹沿線であります。かの要伯村と野村町とをつなぐために莫大な犠牲を拂い、難工事であつた土屋トンネルの開通しましたのも、まつたくこれがためであります。本線は野村駅と大洲駅を連絡するものであります。縣道未改修わずかに二キロ余であります。これが完成に伴ひさらに延長の請願をなさんと予定しております。現在大洲駅より坂石駅を通過し、野村駅より卯之町駅に至るこの間の乗客及び荷物等の騷擾状態は、まつたく苦痛に絶するものがあります。一般地方の事情は、いかがでありませうか。通勤通學者ばかりではありません。老人や子供、弱者の乗車状況はまことに見るに忍びないものがあります。ある者は初発から待ち合ひ、かろうじて最終に乗車をいたしましたり、あるいは遂に乗車することができずして、一泊を余儀なくするといふような実例も少くないのであります。ゆえに本線の延長はまつたく大洲駅、坂石、野村、卯之町間の緩和の上には必要欠くべからざる線路であると考えておるのであります。ここに地方の民意を代表いたしました本委員会の御審議を煩わしいことが請願の大要でございまして。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 御請願の趣きはまことごとくもつとであると考へます。野村駅から中筋村の距離はわずかに四キロ余り、一時間の距離であります。し、今の南線線の路線の延長という考え方で考へたいと思ひます。井谷君が、しかし井谷議員も特に御承知の通りの予算資料の事情でありますので、早急に実施できるかどうかといふ

ことは確言はいたしません、十分に考慮いたしてみたいと存じます。

○井谷委員 これは私どもの方では朝晩二往復でも結構でありまして、この卯之町というのは農学校がありまして、非常に通勤者があるために朝晩一往復でも結構であります。

○島上委員代理 ほかにも御発言はありませんが、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第六、長坂村に簡易停車場設置の請願、淺利三朗君ほか三名紹介、文書表第七〇五号を議題とし、紹介議員淺利三朗君の説明を聴取いたしました。

○淺利三朗君 本請願は岩手縣の一ノ関から大船渡へ参ります大船渡線の間であります。陸中松川駅と楢沢駅間の中央の地点、岩手縣東磐井郡長坂村字柴宿に簡易停車場を新設せられたいという事をお願いする次第であります。元來この大船渡線と申しますのは、從來鋼鉄線とまで言われておる所で、非常に屈曲いたしておるのであります。そうしてただいま申し上げました陸中松川駅と楢沢駅の間は、九キロ三分という長距離であります。しかもその曲つておる中間の柴宿という所に今簡易停車場を設けていたいただきたいというのであります。この両駅によつて現在交通いたしておりませんが、この駅ができるために便益を受けるのであります。それは長坂村、猿沢村、田河津村の三箇村の人々であります。これはともに地理的に現在の駅を利用いたしません、今回の候補地となる所から、さらに両方に通わねばならぬよ

うな非常な不便を感じておるのであります。それでこの問題につきましましては、從來からしばしば要望せられて、すでに昭和十年以來回数にわたつて新設の陳情、請願を出しておるのであります。たまたま大東亞戦争になりました、新たな事はやつてはいかぬというやうなことで、そのままになつておつたわけでありまして。敗戦後の現状から見ますと、日本の再建の上からいきまして、特に食糧、燃料、あるいは住宅の基礎資材というやうなものが増産の第一の基本條件になりまして、たまたま申しました長坂、猿沢、田河津のこの三箇村は、これらの資源地であります。この未開発資源を開発する意味から申しましても、また住民の便益の上から見ましても、ぜひともここに簡易停車場を設けていたいただきたいのであります。本來ならば普通の停車場をお願いしたいのでありますけれども、今日の時代でありますから、資材その他の関係もありますので、簡易停車場をもつて当分満足するのであります。運輸当局におかれましても、この地方に何か保線分駐所というものを設けようという御計画があるやうであります。これは實際距離が非常に遠くて、特に鋼鉄線のしかもその頂点をなすというやうな関係から、自然当局側でもそういうことをお考えになつておると思ひます。そういふ考えになつておると同時に、簡易停車場にしていただくならば、御当局におかれましても、また仕事の上において一石二鳥ということにならぬと思ひます。今日の財政上至難ではありますけれども、簡易停車場程度のものではありますから、ぜひともこの要望

を達成せられまして、地方の交通事情をもう少し緩和していただきたい、殊に薪炭とか、木材とか、またその地方には石灰石も多いためでありまして、そういう重要資源の開発にも十分役立てていただきたいと思ひます。現在この大船渡線は非常に虐待を受けておられまして、その交通量の多いにもかかわらず、設備が悪いという事は有名であります。東京の循環電車よりもつと人がこむというやうな現状であります。これに乗るために、今の三箇村の人々は、自分の地方事務所へ行くの朝の五時ごろに出つて、ようやく朝の汽車に間に合つて地方事務所へ行

く、また会議半ばにして帰らなければ、その日のうちに自分の家に帰れないという不便を忍んでおられるのであります。受ける利益は、各方面において多大なものがあるののでありますから、ぜひともこの願を御採択あらんことをお願いする次第であります。

○島上委員代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 大船渡線の陸中、松川駅、楢沢駅間の間に新設設置の御要望でございますが、この間はたゞいまお話になりましたやうに、九キロ三分という長い区間でございます。今日まで駅の設置が実現しなかつたことはたいへん遺憾に存じているのであります。ちようどこの御要望がありましたときに、競争になりました。御要望に對しまして十分なる突現の措置が講ぜられなかつたのでございまして、地勢の関係、あるいは冬季などは特に困難のことと存じております。当省といつても、競争中

とは事情が異なつておることと存じますので、最近の事情をよく調査いたして、その結果をまつて何分の御意見を申し上げたいと存じます。ただ御承知のように、最近予算が非常に切り詰めておられますので、予算あるいは人風という方の関係からも、多少考慮しなければならぬ点があることを御了承願ひたいと思ひます。

○淺利三朗君 承りますと、何かここに保線の方の分駐所を設ける御計画があるやうでありますから、それと関連しまして、一緒に願ひたいというのが地方の要望であります。

○石井政府委員 なるべく調査いたしまして、次に移ります。

○島上委員代理 本請願に對して何か御発言はありますか。――なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第一、北海道釧路市軌道運送に関する請願、坂東幸太郎君紹介、文書表第七四三号を議題とし、紹介議員が見えませんが、井谷正吉君から紹介説明を聴取いたしました。

○井谷委員 本請願の要旨は、北海道枝幸郡歌登村は純樺村で、現在たゞ一つの交通機關として北海道軌道の経営にかかると、種々動向が存するだけであるが、同軌道は次第に路線その他の施設物が腐朽退廃し、加ふるに年々拓殖予算の削減により、これらの補強が急ぐこととならないために運行能率が急に低下して、産業の振興、住民の生活に一大障害を來しつつある。ついでには國庫補助をもつて該軌道の運行を強化継続されたいというのであります。

○島上委員代理 次に政府側の意見を聴取いたします。――本件の政府側の答弁を保留いたします。

○島上委員代理 次に日程第二、米原、敦賀間鉄道電化並びに敦賀、木ノ本間新線工事促進の請願ほか八件、森幸太郎君紹介、文書表第七六二号を議題とし、紹介議員が見えませんが、井谷正吉君から代つて紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、北陸線米原、敦賀間鉄道の諸設備は、地形上開通以來何らの改善を見ず、しかもこの区間は旧式のトンネル多く、また急勾配の連続であり、さらにスイツパツクの駅所が多く、物資輸送上支障があるとともに、國民旅行上の難関であり、地方産業、文化の向上を阻害している。ついでには米原、敦賀間鉄道の電化並びに敦賀、木ノ本間の新線工事促進されたいというのであります。

○島上委員代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○田中(義)政府委員 米原、敦賀間の電化は急勾配区間でございまして、昭和十五年一部工事に着手いたしました。が、競争のためにこの間の複線工事の遅延に伴ひまして、電化工事は中止いたしました。終戦後國鉄の電化計画にあたりまして、この区間を長期電化計画の中に編入いたしました。また本区間には着手いたしていません。次に本区間の複線工事がありますが、現在線の急勾配を緩和し、北陸線の輸送力を増すという目的から、昭和十三年から工事に着手いたしました。が、地質の関係で非常に工事が遅延しております。折から、競争に遭遇いたしまして、現在約六分通りの工事進行になつており

第一類第十四号 運輸及び交通委員會議録 第二十五号 昭和二十三年六月二十八日

ます。当局といたしましては、本橋工事を速やかに進めたい希望をもつておりますが、目下の国内事情から、予算、資材の關係もありまして、二十三年度は、一應工事中止のやむなきに至つております。従いまして、この区間の電化並びにこの複線工事とも、現在中止の形でありまして、できませすれば北陸線の重要性に鑑みまして、近い將來に再開したいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第七、雄勝町大須崎に救難所及び簡易登台設置の請願、内海安吉君紹介、文書表番号第八〇七号を議題とし、紹介議員内海安吉君の紹介説明を聴取いたします。

○内海安吉君 宮城縣雄勝町大須崎は雄勝町の東北先端に位置いたしました。北南は太平洋に面し突出しておるのであります。南方約十マイルの地点は、金華山及び江の島と対立し、東北は遠く若手瀬里川に対して突出してゐるのであります。海域には各種魚類が繁殖する日本唯一の金華山漁場がありまして、漁船も多く、かつ海洋沖合には大型、小型汽船の航行が頻繁なる船舶であります。しかるにこの大須崎は、到るところに暗礁が点在しておりまして、風濤または濃霧の際には、出漁船及び沖合航行汽船が針路を誤りまして、座礁し難波船となり、当岬に遭難し来るものが多々あるのであります。これがために生命財産を喪失する数年々歳々多きを算する難域であります。大須部港民は明治二十四年

一月、大須水難救済組合を組織いたしました。帝國水難救済会に属して独力にて見張所を設置しこれが救済に当り、この地域の水難救済事業に献身的努力を傾けてまいつたのであります。が、現下の國情に際し海運業と海上産業の必死の努力を要するときに、大須岬のごとく海難事故またよやく多きを加ふるを見るは、まことに残念にたえないのであります。この際救難施設の拡充、強化を痛感いたして、政府におきまして、大須岬に簡易登台並びに救難所を設置し、もつて海難防止の使命達成に御支援せられんことを願ひたいのであります。ここに本町議会の決議をもちまして、請願いたします。次第であります。何とぞ御採擧あらんことをお願いいたします。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○樺本政府委員 まず登台の問題から答弁いたしますと、本式の登台を建設しますことは、目下非常な困難がございます。簡易登台の御要求ならば、現地を損益海上保安本部をして調査せしめて、なるべく速やかに御要望に副うように努力いたしたいと思ひます。

次に水難救済所の問題でございますが、海上保安廳といたしましては、水難救済のことには最も力を入れておられますが、現在保有しております船舶のみをもつては、満足な結果は予期できないために、できるだけ地方の水難救済会あたりに援助いたしまして、これを強化させたいという方針を立てておられますけれども、ただいまのところいづゆる前渡しをいたしません補助金制度は、關係方面との交渉に

おいてはなほ困難を感じます。何か実績が上りましたときに、報奨制度でこれを助けていきたいというふうな方針で鋭意いろいろ立案中でございませぬ。

○内海安吉君 この請願のいづゆる簡易登台に対しては御賛成でございます。ことと承りました。が、報奨制度というふうなまねるいことではなからうか、こういつたような問題は、むしろ政府において積極的に速やかに取上げて、今年度はむずかしいかもしれませぬが、遅くも明二十四年度の予算に、ぜひとも御計上くださいまして、この要請の達成に御協力あらんことを希望いたします。私の説明を終ります。

○島上委員長代理 本請願に対しては何か御発言はありませんか。——なければ次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第四、朱鞠内、羽幌間鉄道敷設の請願、坂東幸太郎君ほか三名紹介、文書表番号第七四号を議題とし、紹介議員がお見えになりますので、井谷正吉君の紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、北海道天塩郡羽幌町より天塩郡名寄町に至るいづゆる名羽鉄道中、朱鞠内、羽幌間は、いまだに完成を見ないが、かつ間は豊富な森林資源を有し、この区間は日本海とオホーツク海を結ぶ重要路線である。ついでに該区間に鉄道敷設されたいというのであります。

○田中(茂)政府委員 お答えいたします。本区間は鉄道敷設法で定額でございます。お話のように沿線には羽幌炭田地帯がありますので、大森林その他廣大なる農耕地がありますので、相當に資源の豊かな地帯と考えられておりますが、ただ非常に地形が複雑しておりますので、建設線としては難工事だといふ予想であります。当局といたしましては目下の国内事情で、さしあつて新線に着手することは困難であります。これらの資源開発については非常な関心をもちておりまして、將來いろいろ調査研究いたしてみたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第五、羽幌、遠別間鉄道敷設の請願、坂東幸太郎君ほか三名紹介、文書表番号第八〇七号を議題とし、紹介議員がお見えになりますので、井谷正吉君の紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、北海道苫前郡羽幌町築別より阿部初山別村を経て、天塩郡遠別村に至る路線は、留萌市を起点とし、宗谷本線に直結する北部北海道開発の一大使命を有する重要路線で、沿線には豊富な森林資源を有し、前途はきわめて有望であります。ついでに該区間に速やかに鉄道敷設されたいというのであります。

○田中(茂)政府委員 この鉄道は運搬採路並びに拓殖の計画をもちまして、第六十九議會、昭和十一年五月に建設費予算に計上されまして、そのうちの一部、すなわち羽幌、築別間約七キロ

には昭和十六年十二月に開通したのであります。残りの築別、遠別間四十三キロは戦時中になりました工事の施工が延期されて今日に及んでおる次第であります。この区間はさしあつて近い將來に工事に再着手することが目下の国内事情から見て一應考慮されないうような事態になつております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第八、高田、樺澤間國營自動車運輸開始の請願、紹介議員志賀健次郎君、文書表番号八〇一〇号を議題とし、紹介議員がお見えになりますので、井谷正吉君に代つて御説明をお願いいたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、大船渡線樺澤駅より高田町に至る既道は、若手縣南部ただ一つの横断道路で、三陸海岸と内陸縦貫線とをつなぐ最近距離で、交通上の重要幹線の一であり、かつ森林産物、海産物あるいは鉱産物等が豊富であるが、冬季積雪による交通難等のため、これらの諸資源も死蔵されている状態であります。ついでに資源の開発並びに清貨物運輸のため、前記区間に國營自動車の運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 この路線は、迂回しております。大船渡線を短絡するかつこの路線と存じますが、目下樺澤と大原間以外は運休をいたしておりますけれども、すでに民營の自動車の路線と相なつておる關係で、まず運休して

る区間の復活に力を入れたいと思つておられます。御承知の通り、現行の情勢でありますので、國營自動車運行させることはさしあたり困難だと思つておられます。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第一〇、徳佐、東森間國營自動車運輸開始の請願、紹介議員坂本實君、文書表第八五三号を議題とし、紹介議員がお見えになつておりませんので、井谷正吉君に代つて紹介説明をお願いします。

○井谷委員 本請願の要旨は、山口線徳佐駅より山口縣阿武郡高年、高保、吉部、福川等の各村を結ぶ山陰線東森駅に至る間は、國有鉄道建設予定線であつて、その沿線一帯は農林、畜産物資源並びに地下資源に恵まれ、將來を期待されているが、交通機関に恵まれず、ために住民の不便はもとより、地方開発上大なる支障となつておられるのであります。ついでに該路線に國營自動車の運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 この路線は山陰線と山口線とを結びます徳佐、長門大井間の鉄道敷設で、その大部分が予定線に該当いたしております重要な路線であります。私も前任地の関係でよくこの地方の事情を存じておりますが、今お話もありましたように、農林産物あるいは地下資源の豊富な地方であつて、自動車の発達によりまして將來を期待されることはまことにごもつとも

と存するのであります。しかし何と申しましても、現在の事情から言つて早急の実現はむずかしいので、現在民間の自動車も運行中でありまして、まづもつてこれが増強に力を用いてまいりたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第一一、荒砥、山形間國營自動車運輸開始の請願、松浦東介君紹介、文書表番号第八五四号を議題とし、紹介議員代理海野三朗君の紹介説明を聴取いたします。

○海野三期君 荒砥町と山形間に國營自動車運輸していただきたいという趣意でございます。荒砥町は、米沢から今泉を結ぶ荒砥方には鉄道が通つております。また山形の方は奥羽本線が通つておりますが、その荒砥と山形との間に介在しますところの約二十数箇町村の住民はまことに交通に恵まれておりません。殊に荒砥は農産物の産地であり、また荒砥の産地でありますので、山形とこの間をつなぐところの鉄道の敷設を請願いたしましたのであります。それは時局柄とていふ望み得ないので、せめてこの國營自動車を運輸していただきたいと申し上げます。この地方民の切なる要望でございます。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 この路線は山形から荒砥を直結します林産資源の開発と存じますから、いづれ研究をいたしたと思ひますが、あるいはこの中間部の道路はまだ未完成で、國營自動車の

運行には支障があるのではないかとと思われるのであります。しかしこの点はさらによく研究をいたしてみたいと思ひますが、なお山形、荒砥の両端附近には民營自動車も一部運輸をいたしておるようには思ひます。研究はいたしますが、御案内の通りの予算、資材の事情でありますから、早急実施は困難であらうということをお断り承願したいと思います。

○海野三期君 この間の道路はトラックが通るようになっておりますので、道は相當にでき上つておると存するのではありませんが、政府御当局におかれては实地調査をいたされまして、地方民の要望を容れていただきたいようお願いいたします。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第一二、東京、鹿兒島間及び門司、鹿兒島間に直通急行列車運輸の請願、上林山榮吉君紹介、文書表番号第八六五号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君の紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 鹿兒島縣は南九州の要地でありまして、殊に貿易再開に伴うわが國最南端の要地として、また観光ルートの一環といたしまして、今後日本再建の上にも果すべき役割は誠に大きいのであります。現在中央との交通はきわめて不便でありまして、これが時間的距離的障害を除くために、東京、鹿兒島間及び門司、鹿兒島間に直通急行列車の運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 御要望の趣旨に副いまして、ただいま運轉いたしております門司、鹿兒島間の急行列車と東京、門司間の急行列車を今回七月一日より時刻改正を行いますのに際しまして、東京、鹿兒島間直通運轉するようにいたしております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第一四、桑折、丸森間國營自動車運輸開始の請願、庄司一郎君ほか二名紹介、文書表番号第八九六号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君の紹介説明を求めます。

○井谷委員 本請願の要旨は、福島縣伊達郡桑折川北端より宮城縣伊具郡に入り、亘理郡荒浜で太平洋に注ぐ阿武隈川の流域地方は、おむね平坦地で地味が最も豊かで、古來養蚕業その他各種農村工業が盛んで、林産資源も多数に上るのであるが、交通機関に恵まれなため、住民の不便はもとより、生産物資の搬出上支障が大であります。ついでに東北本線桑折駅より桑折町を経て宮城縣の丸森町に至り、白石、中村間の國營自動車に接続する國營自動車の運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 この路線は福島から丸森を経て常磐線の中村を結ぶ鉄道敷設予定の線に該当いたしております。また東北線と常磐線の短絡線でもあり、阿武隈川流域の地方の産業の開発ともなる重要な路線であるということ

はよく存じておりますが、目下の予算、資材その他の関係から早急に実施困難なことを御了承願いたいと思ひます。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第一五、日本通運株式会社鹿屋支店存続の請願、的場金右衛門君ほか二名紹介、文書表番号第九〇二号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君の紹介説明を求めます。

○井谷委員 本請願の要旨は、今回発表された日本通運株式会社の企業再建整備案によれば、鹿兒島縣大隅地方ただ一つの輸送機關の中核たる日通鹿屋支店が分離し、一地方運送店として轉落するようであるが、これは当地地方の開発に一大支障を來すのみならず、國家的見地からも重大なる損失であるから、日本通運より鹿屋支店を分離することは反対で、これが存続方をはかられたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の説明を聴取いたします。

○小幡政府委員 日本通運株式会社の再建整備計画につきましては、現在の各種情勢下における同会社の業務の重大性及び國有鉄道における輸送計画の実施に重大な關係がござりますので、これに対しては深甚な關心をもつておるのであります。同社の再編成計画は各地取引の確保、重要物資の流通秩序の維持増進及び鉄道輸送の計画性の確保、その円滑化を基本方針といたしまして、さらに營業收支の償うか、償わぬかというような点も重要な問題とい

たしまして、利用地域の整備につきましても、その方針に従つて処置いたしておりますのでありますが、再編成計画の決定は、特殊整理委員会の所管に属しておられますので、諮議の御趣旨は十分同委員会に傳達することにいたしたいと考えております。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第九、鉄道用枕木割当に關する諮議、野原正勝君ほか七名紹介、文書表番号第八二〇号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を求めます。

○井谷委員 本請願の要旨は、岩手縣枕木産産組合に対する昭和二十三年度供出割当金は三十五万本にすぎず、手持量換算約一億円が資金化されないため、本縣の枕木業者は現在破局的危機に当面臨している。かくては生産意欲の減退、専門技術者の離散轉業等、今後の枕木生産上憂慮すべき結果を招来するから、栗五、雜五の割合を以て供出割当増加をはかられたい、というのであります。

○島上委員代理 次に政府側の意見を聴取いたします。
○中村説明員 簡単に御説明申し上げますが、実は國鉄は大分今まで枕木に困つておりました、昨年の下期から枕木増産運動というものを始めまして、大分業者の皆協力を得た關係上、昨年には七百二十万本納入していただきました。二十一年度の三百万本に対し非常な好成绩を示しております。但しその過半数が下半年に納入されたため、二十三年度三月末日に

おいて約三百万本の使用残高を保有しておりますわけであり、二十三年度予算に要求されている使用見込み数百万本の計割から見ると、本年度は三百万本を納入すればよいことになるのでございますが、枕木の生産確保の見地から大体五百万本ぐらいの購入計画を考えているわけでございます。この数字を基礎におきまして、なお話がございましたように岩手縣については過去の成績もよい縣であるので、できるだけ計画としては考慮しても、昨年度の購入実績、並五十五万五千五百八十八本、分岐一万九百三十本に対し、今年度の計画は並三十五万本、分岐一万六千本でございます。いまして、相当去年より減つていようかどうなるか、この点はわれわれも申らないと思つておりますが、予算の關係その他の事情よりやむを得ないものがあるのではないかと思つております。なおその対策といたしましては、今までのところ一種と申します腐りにくいものを減らしまして、三種を少し増やそうということを考えておりますと同時に、かつまたビルマ、タイとかフィリピン方面への輸出の話がございますので、その方もにらみ合わせて九州方面の枕木をぜひにまわして岩手、北海道のものをこれに使用したいと考えております。國內の調整もしてみたいと思つておられます。それでもなお困りの場合は、金融の御助線を業者の方にいたしまして業者の方の困らないような方法をとりたいて考えております。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第一六、推奨、相生間國營自動車運輸開始の請願、三木武夫君紹介、文書表第九二四号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を求めます。

○井谷委員 本請願の要旨は、鳴門海峽地方は文化、観光及び産業上の要地であるが、推奨線により高徳線に連絡している關係上、貨物の輸送に不便を感じている。ついては推奨、相生間に國營自動車の運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第一七、興浜南線全通の請願、坂東幸太郎君紹介、文書表番号九二六号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の趣旨は、北海道興浜南線全通、すなわち雄勝駅から北見枝幸駅に至る鉄道の達成に關してであり、昭和二十一年議會で採択されたのでありますが、財政及び資材難のため、その実現を見るに至らなかつたのであります。本線は本道北方運輸の要路の一環であり、沿線における未開発地帯の開拓促進、鉱産資源及び原野の開發に資すること大であります。ついては速やかに該線を全通されたいというのであります。

○島上委員代理 本請願の趣旨は、興浜南北線の重要性につきましては、政府もこれを認めております。もちろん鉄道敷設予定線でありまして、南北線の建設は部分的に進んでおります。殊に戦時中撤去いたしました約五十キロは、重要性を認めて復舊したのであります。その残存の区間をつなぐにつぎましては、ただいまのところ修繕、建設に対する予算、あるいは資材、全体の面から考へて、早急にこの区間を連絡することは目前困難な事情にございます。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程第一八、運子所在の「海の家」拂下げに關する請願、小暮三郎君紹介、文書表第九三〇号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の趣旨は、横須賀市運子海岸所在の運輸倉庫に於ける「海の家」は、都人士から非常な絶讃を受け、年々ともに利用者は増加の一途をたどり、國民の保健並びに休位の向上に寄與したことはもとより、当地の發展に資するところ大なるものがあつたのであります。一方本市は軍港都市であつたため、終戦により市財政はい

よいよ窮迫の度を加えつつあるのであります。ついては本市の有力な財源として、「海の家」を本市に拂下げられたいというのであります。

○島上委員代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 運子にございます「海の家」拂下げの御要望でございます。ただいま「海の家」は職員教育並びに修養施設として使用いたしておりますが、きわめて快楽をつけておりまして、夏季のみはこれをリクリエーション用として一般の方々に供しておるわけであり、年間を通じました職員教育用に使用いたしておりまして、ただいまこれを拂下げたいという御要望には、おこたえしいと存するのであります。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 次に日程一九、湯之元駅に急行列車停車の請願、的場金右衛門君紹介、文書表番号第九三五号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の趣旨は、鹿兒島縣日置郡湯之元駅は、九州における知名温泉として將來の發展を予見される湯之元温泉を控へ、日々の乗客は鹿兒島、川内兩都市間における各駅の上位にありまして、將來地方都市としての形を備へ具備しつつあるのであります。ついては該駅を急行停車駅として指定されたいというのであります。

○島上委員代理 本請願に対して何か御発言はありませんか。——なければ、次に移ります。

○島上委員代理 本請願の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 今回七月一日から改
正いたしますダイヤによりますと、鹿
見島本線には東京、鹿見島間の直通
の急行が一往復ございまして、湯の
元駅の近くでは、川内及び伊集院にそ
れぞれ停車いたしておりまして、その
停車直後に上り下り接続しておる区間
列車がございまして、ただいまの
ところ急行列車の停車を難やすという
わけにはまいらないので、接続列車を
御利用することで御半抱を願いたいと
存するのであります。

○島上委員長代理 本請願に対して何
か御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○島上委員長代理 次は日程第二〇、
彦山、大行司間鉄道敷設促進の請願、
梅林時雄君ほか一名紹介、文書表番第
九三九号を議題とし、紹介議員代理
井谷正吉君より紹介の説明を聴取いた
します。

○井谷委員 本請願の要旨は、北九州
築紫安田隣接の福岡縣朝倉、大分縣日
田、熊本縣阿蘇一帯は、本邦著名の森林
地帯であります。現在輸送路不備の
ため、杭木百二十万石が消費しておる
状態で、石炭増産に上りて道徳であ
ります。ついでには日田線のうち未完成
部分たる彦山、大行司間の鉄道敷設工
事を速やかに施工され、日田線を全通
されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見
を聴取いたします。

○田中(茂)政府委員 この鉄道は、第
六十五議會で資源開発並びに運輸系路
上の見地から、建設費予算に計上せら
れまして、そのうち彦山、彦山間、及
び夜明、大行司間は開業いたしました

が、残りの彦山、大行司間のうち、釈
迦線路の一部を除いて、大部分は
すでに土工事を完了いたしました。
しかし資材関係でもつて目下工事を中
止しておりますが、当局といたしまし
ても、この鉄道の使命に鑑みまして、
急速に工事を再開したいという希
望をもちまして、目下関係筋と折衝中
でございます。最近関係筋の方から現
地調査に参りまして、私どももいたし
ましても極力工事の再開を速やかなら
しめるべく、努力いたしておる次第で
あります。

○島上委員長代理 本請願に対して何
か御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○島上委員長代理 次は日程第二一、
札幌地区鉄道復興計画施行の請願、椎
熊三郎君ほか二名紹介、文書表番第
九四二号を議題とし、紹介議員代理
井谷正吉君より説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、札幌地
方の発展、人口の激増、産物貨物の増
加等により同地方の國有鉄道の路線、
停車場その他の諸施設は速急にこれを
拡張改良するの必要に迫られておるの
で、運輸省において計画中の札幌地区
鉄道復興計画を昭和二十三年に着工
し、速やかに完成されたいというので
あります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見
を聴取いたします。

○田中(茂)政府委員 札幌地方の密着
の鉄道施設の拡張という事は、多年
問題になつておられますので、最近の機
会に札幌附近の将来を見透したた
張計画を樹立して、この将来の計画の
一部として着工すべく考慮中ござい

ます。本年度からこの工事の一部に備
手いたすつもりでございまして、暫定
施設といたしまして札幌貨物駅の荒
荷線の新設、西札幌貨物駅発着線の土
土工事を施行する予定であります。

○島上委員長代理 本請願に対して何
か御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○島上委員長代理 次は日程第二二、
鶴岡、石狩太美兩駅間に停車場設置の
請願、椎熊三郎君ほか二名紹介、文書
表番第九四三号を議題とし、紹介議
員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取
いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、産業振
興のため、北海道石狩國道沿線の緊急
開拓事業を促進して農産物の増産をは
かり、併せて生鮮魚介陸揚地としての
機能を充実し、近接消費地帯への迅速
豊富な供給輸送の根拠地たらしめるた
め、速かに札幌線鶴岡、石狩太美兩
駅の間、釜谷日地区に停車場を設置さ
れたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見
を聴取いたします。

○石井政府委員 札幌線鶴岡、石狩太
美間は九キロ一分ありまして、御希望
の地点は石狩川の流域で草炭の産地で
ございまして、この請願の駅がござい
れば、札幌市内の燃料対策上非常に御
便益であろうと存じますが、御希望の
地点は、石狩川の鉄橋の附近でござい
まして、駅の設置には必ずしも適当で
ない場所でございますので、さしあた
りまして駅の設置につきましても、御
要望に副いかなる次第でございます。

○島上委員長代理 本請願に対して何
か御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○島上委員長代理 次は日程第二三、
高嶺村に停車場設置の請願、因前安正
君紹介、文書表第九四九号を議題と
し、紹介議員代理井谷正吉君より紹介
説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、山形縣
東村山郡高嶺村は、仙山線の横山、山
寺兩駅の間に位置し、停車場がないた
めに、多量に産出する林、農、産物の
搬出並びに通勤、通学に甚だ不便で
ある。ついでには本村の実情を調査
の上、本村内に停車場を設置されたい
というのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見
を聴取いたします。

○石井政府委員 山寺、横山間は六キ
ロ二分の距離がありますが、この間は
ほとんど全区間急勾配の連続でござい
まして、駅の設置は技術的に困難で
ございまして、強いて設備いたしますと
非常に莫大な工事費と資材とを要しま
すので、目下の経済状況のもとでは、
とうてい不可能と申し上げるはかばか
ないのでございまして、しばらく御辛抱
をお願いいたしたいと存じます。

○島上委員長代理 本件に対して何か
御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○島上委員長代理 次は日程第二六、
久慈、白山間及び久慈、玉ノ脇間國營
自動車運輸開始の請願、山本猛夫君紹
介、文書表第九七〇号を議題とし、紹
介議員代理井谷正吉君より紹介説明を
聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、岩手縣
九戸郡長内村白山、久慈町間及び長内
村地内久慈港、玉ノ脇間は人家が閉密
で、多数の官公署、小学校等が存在
し、さらに各種の重要工場があつて、
毎日の通勤者、通学者がおびただし
い。ついでには地方民の利便をはかるた
め、速やかに該兩区間に國營自動車
運行されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見
を聴取いたします。

○小幡政府委員 久慈町を中心に沼宮
内、軽米、普代各國營自動車路線は
すでに完成されておりました。従つて
この町には自動車区も設けられて
おりますが、御承知のように、國
營自動車の路線を開きまことはもち
ろん、わずかの延長につきましても、
目下の國內情勢では、簡単に実施でき
ない現状にあるのであります。なお、
この路線につきましても、第一回の國
會の請願もありまして、事情はよく存
じておりますので、さらに研究はいた
したいと存じますが、ただいま申し上
げましたような次第で、早急の実現に
ついては、必ずしも機を得ていないこ
とを御了承願いたいと思ひます。

○島上委員長代理 本件に対して何か
御発言はありますか。——なけれ
ば、次に移ります。

○井谷委員 本請願の要旨は、日本再
建のため輸送力の増強が叫ばれている
今日、國鉄の輸送力は生産増強に伴わ
ず、貨物は山元や駅構内に放置されつ
つある。木材地方と称される南九州にお

いても建築用材を初め杭木、木炭等の生産は急激に増加しつつあるが、輸送難のため滞貨がはなはだしい。ついでに鉄道の輸送力増大並びに海上輸送の強化を促進されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 南九州地方の輸送力の逼迫につきましては、当省も十分承知いたしております。これも國鉄全体の貨物輸送力が全面的に逼迫してきたためでございます。南九州地帯と同じような状態が、青森、若手、北海道、秋田、島根という各農林産資源のきわめて豊富で、しかも輸送力の狭い地方に、いろいろ現われておるのでございます。これに対しましては、まず何としましては、國鉄全体の輸送力の増強をいたさなければ、根本的には解決できないのでありまして、これに対しましては、御承知のように閣議決定を遂行して、種々対策を講じてはおりますが、予算、資材等の関係から、急遽に所期の整備ができません。まことに遺憾に存じておる次第でございます。南九州には木材で推定二十万石にも達する積貨を擁しておると見られておるのでござい

ますが、この中には杭木、あるいはパイプ用材、あるいは輸出用材等、きわめて緊要なものがございますので、これらの緊急を要するものを優先輸送いたしまするために、一般の土産材の輸送は、御要請の二五％くらいしか送れないような状態になつておるような次第でございます。従いまして、これらの輸送につきましては、本州から回送いたしました九州の炭鉱に移りますと

ころの石炭を積む空車を、そのまま南九州へ押し下げまして、そこで杭木を積んで、それから炭鉱に輸送するといふような措置を講じておりまして、いくらかでも増送できますように、あらゆる苦心をいたしている次第でございます。なお海運に轉移するといふ問題は、これは輸送の勵行、増強をいたします根本方針でございますので、可能な地帯と時期を選びまして、極力これを実施するように努力しております次第でございます。

○島上委員長代理 ほかにも何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第二八、南福井操車場及び北福井信号所昇格の請願、坪川信三君紹介、文書表第一〇八号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、福井縣北福井地方は都市計画住宅地として、また各種産業の工場地帯として手約され、急激に発展しつつある。また福井操車場附近は大工場、病院、学校等を初め各種生産工場等もあり、盛んに交易が行われ、ともにその服務圏内には多数の人口を有し、貨客も多数であるが、これらの貨客は鉄道に目前に見ながら遠く離れた駅を利用しなければならぬ。ついでには北福井信号所及び福井操車場を一般駅に昇格されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 北陸本線福井操車場及び北福井信号所を一般駅に昇格の御

要請でございますが、本件につきましては、今回初めて承りました問題でございますので、よく実情を調査の上、採否の決定をいたしたいと存じております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第二九、上野、金沢間急行列車を米原まで延長の請願、坪川信三君紹介、文書表番号第一〇九号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、現在金沢、上野間に急行列車が運行されておるが、乗客の実情は金沢地区よりも福井地方より輻輳する者が多数であり、さらに福井以南においては米原經由により東京方面への乗客が漸増しつつある現状であります。しかるに金沢、米原間に急行列車の運行がないため、地方民の不利不便は大であります。ついでには上野、金沢間の急行列車を上野、米原間に延長されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○石井政府委員 福井以南の地方から、米原經由で東京方面においてに在るには、今回七月一日より改正いたしますダイヤによりまして、福井を七時三十二分に乗りましたとすれば、米原で東海道線の急行列車に接続いたしましたのでございまして、また夜行を御希望なさる方は、福井を十六時二十分に乗りになりますと、米原でこれも急行

列車に接続いたしましたして、東京には翌日の朝の六時十五分に到着いたしますのでございまして。北陸線經由においてもございまして、福井を十五時三分の汽車にお乗りになりましたと、金沢で約一時間二十六分接続がございまして、上野には翌日の八時五十分に着いたといふようなかつこうになるのでございます。かように米原經由の方は昼夜二回の便宜がございまして、直江津經由の方はわずかに一回でございますから、福井以南の地域から東京方面への方は、米原經由の道を御利用になる方が、現在では非常に御便宜になる考えられますので、上野、金沢間急行を米原まで延長いたすといふことは、現状においては必要のないものと考へておる次第であります。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三〇、河守、宮津間鉄道敷設の請願、若田均君紹介、文書表番号第一〇一〇号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、京都府興野郡宮津港は瀬川の支那海津、福津と相対する開港場で、わが國経済再興に重大使命を有するとともに、観光地としての、漁港としての迅速を必要とするので、宮津港と大阪、神戸を短時間に連絡せしめるために、沿線地方産業の発展に資するため、北丹鉄道の終点河守駅から宮津に至る間に鉄道を敷設されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 自動車運行にはま

○田中(茂)政府委員 この河守、宮津間は沿線の林産あるいは鉱産の資源が相当ございまして、また鉄道敷設予定線になつておりませんが、詳しい調査をいたしておらないのでございまして。ただ図面を調査いたしますと、約二十キロの見込みでありまして、越後の途中には大江山の山脈がありまして、工事としては相当難工事と考えられております。当局といたしましては、且下の國內事情では本建設を早急に着手するといふことは困難な実情でございますが、資源開発並びに観光上の問題を考へまして、今後研究いたしてみたいと存じております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三一、武生より朝日、趣酒を経て三國に至る路線を國營自動車道路に編入の請願、坪川信三君紹介、文書表番号第一〇一一号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、福島縣南條郡武生町より丹生郡朝日町及び趣酒村を経て坂井郡三國町に至る道路は、縣内主要な幹線で、沿道一帯は農林、水産物の主要な産地であり、また種々の工業も盛んであるが、道路の幅が狭く、屈曲が多く、また勾配も急な箇所があつて車馬の通行に著しい障害を來している。ついでには該道路を改修し、國營自動車道路に編入されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 自動車運行にはま

りになりますと、米原でこれも急行

列車に接続いたしましたして、東京には

翌日の朝の六時十五分に到着いたすので

ございまして。北陸線經由においても

ございまして、福井を十五時三分の汽車に

お乗りになりましたと、金沢で約一時間

二十六分接続がございまして、上

野には翌日の八時五十分に着いたとい

ふようなかつこうになるのござい

ま。かように米原經由の方は昼夜

二回の便宜がございまして、直江津經由の方はわずかに一回でございますから、福井以南の地域から東京方面への方は、米原經由の道を御利用になる方が、現在では非常に御便宜になる考えられますので、上野、金沢間急行を米原まで延長いたすといふことは、現状においては必要のないものと考へておる次第であります。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三一、武生より朝日、趣酒を経て三國に至る路線を國營自動車道路に編入の請願、坪川信三君紹介、文書表番号第一〇一一号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、福島縣南條郡武生町より丹生郡朝日町及び趣酒村を経て坂井郡三國町に至る道路は、縣内主要な幹線で、沿道一帯は農林、水産物の主要な産地であり、また種々の工業も盛んであるが、道路の幅が狭く、屈曲が多く、また勾配も急な箇所があつて車馬の通行に著しい障害を來している。ついでには該道路を改修し、國營自動車道路に編入されたいといふのであります。

予道路の完成が先決問題であることは申し上げるまでもないのであります。しかるにこの路線はたゞいま御説明にもありました通りに、非常に道路が悪いのであります。とうてい國營自動車車の運行には適しないのであります。なお現在運行中の民營自動車車の関係もありませんし、また予算、資材その他の事情から考えましても、この悪い道路の上で、たゞいまのところでは國營を考へることは至難であらうと考へております。なお道路の改修につきましても、運輸省といたしましても、關係方面に連絡して、その改修促進をお願いいたしておるような次第であります。

○島上委員長代理 何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次日程第三、明石、網干間電化促進の請願、堀川恭平君紹介、文書表番号第一〇二二号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君の紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、米原、姫路間の電化計画中には姫路駅より網干駅に至る電化計画も含まれておるが、その後これは延期されるようであるが、網干駅は播磨平野にあつて地の利を占め、姫路市の交通計画に伴い、西部道路の発展性は大有り、その中心に位置する同駅は近郊に各種工場があり、工業が盛んで、また良港を控へ、その将来を有望視されている。ついでに姫路、米原間電化計画の中、明石、網干間の電化を促進されたいといふのであります。

○島上委員長代理 政府側の意見を聴取いたします。

○田中(茂)政府委員 東海道線の電化に關しましては、最近の輸送情勢を勘案いたしまして、米原、姫路間を電化計画に編入いたしておりますが、予算、資材の關係がありまして、本年は着手の運びに至らなかつたのであります。この区間の電化も早い機会に着手するつもりでございます。従つて米原、姫路間の電化をさらに網干まで延長するといふことについては、今後十分調査研究の上善処いたしたい、かように考へております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次日程第三、板屋より葛原、谷合、北山を経て岐阜に至る路線に國營自動車運輸開始の請願、大野伴陸君紹介、文書表番号第一〇二七号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、岐阜縣山縣郡及び武儀郡北武儀村、乾村、洞戸村、坂取村はいずれも山林地帯で、多量の薪炭材を有し、また本縣郡根尾村は大森林並びに紙脈が多数あるにかかわらず、輸送機関に恵まれなかつたため、この一大宝庫も死蔵されて、現状である。ついでには根尾村坂屋を経て山縣郡葛原村、谷合村を通じ、谷合村から北山村に至る分線を加へ、岐阜に至る間に國營自動車の運輸を開始されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 岐阜から導見を経て

植原と越波に至る國營自動車路線があります。これは貨物輸送の使命のものと、いわゆる原産地輸送路線といふに開始したものであります。しこうして目下かような原産地輸送路線といふものをいかに整理するかという点について、実は再検討中ののであります。これらを延長することについては、未だ考へていないのであります。しかし、荷物の運搬が、当地には、別途考慮いたしたいと考へております。

○島上委員長代理 本請願に關して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次日程第三、四、藤岡、戸田間國營自動車運輸開始の請願、志賀健次郎君ほか一名紹介、文書表番号第一〇三〇号を議題とし、紹介議員代理として井谷委員より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、若手縣九戸郡伊保内、江刺家、戸田の三箇村の豊かな資源は、二戸郡藤岡町の利用によつて初めてその價値を生じ、藤岡町の産業も興隆するといふ其の關係にあるが、この間に輸送機関がなく、現在民間所有車によつてわずかに輸送をしてゐる状態、生産に阻害するところがございます。物資の損傷は相當量に上つてゐる。ついでには連やかに藤岡、戸田間に國營自動車の運輸を開始されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 この路線の大部分であります北藤岡、伊保内間は、現在運行中の民營自動車を経営上の都合で、國營自動車の運営について、すでに同意をいたしておりますので、昨年度実施候補路線といたしまして、計圖を立てて準備をいたしたのであります。しかし運輸省の予算削減と資材などの關係から、計圖はいたしたものが、実施に至らず、今日に及んでおる次第であります。なお本件につきましては、第一回の國會に請願もありませんが、諸種の事情で早急実施は困難であると考へております。

○島上委員長代理 本請願に對して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次日程第三、六、眞岡線を大子まで延長の請願、山口好一君ほか二名紹介、文書表番号第一〇五一号を議題とし、紹介議員代理として井谷委員より説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、眞岡線を延長し、茨城縣那珂郡長倉村を経て同縣久慈郡大子町に至る鉄道敷設工事は、戦前において栃木縣芳賀郡茂木町より同郡中川村河井までの路線工事が終つたが、戦争の勃発とともに中止されたままになつてゐる。しかるにその沿線の資源はきわめて豊富であり、また地方民の要望も大であるので眞岡線大子まで延長されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次政府側の意見を聴取いたします。

○田中(茂)政府委員 この鉄道は、第

五十六議會、昭和六年三月、資源開発並びに運輸系統上の見地から、建設費の予算に計上された路線でございます。林産、農産の資源が豊富であり、茂木町、烏山、羽黒町等の都市もありませんし、沿線は人口もきわめて多い所でございます。現在ここで茂木、中川間延長約六キロの土工事が進行いたしておりましたが、資材、予算その他の面から工事を中止いたしておるような次第であります。当局といたしましては、資源開発路線については、速やかに工事を進めたい希望はもつておりますが、二十三年度の建設費は全面的に工事中止のやむなき状態になつておりますので、さしあたり御希望に副いかねるような次第でございます。

○島上委員長代理 本請願に對して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次日程第三、七、茂木、笠間間國營自動車運輸開始の請願、山口好一君ほか二名紹介、文書表番号第一〇五二号、紹介議員代理井谷委員より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、栃木縣芳賀郡茂木町より茨城縣西茨城郡笠間町に至る路線は人馬の往來はげしく、沿道各町村は農、林産物が多量に産出されてゐるが、交通機関に恵まれないため地方民の不便は大である。ついでには速やかに該路線に國營自動車の運輸を開始されたいといふのであります。

○島上委員長代理 次政府側の意見を聴取いたします。

○小幡政府委員 民營バス運行の休止

のための御不便はごもつとも存じますが、御請願の茂木、笠間間、これは常時線の延長とも考えられますけれども、先ほど來御説明申し上げます通り、國營自動車の新しき線を建設いたしますことはもちろん、一部の延長につきましても、目下の國內情勢では相當の困難があるものであります、この路線につきましても休止中の民營バスを復活して地方交通の便をおはかり申し上げたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三九、青森、釧路間鉄道復活の請願、山崎君男君紹介、文書表番号第一〇七四号を議題とし、紹介議員代理井谷委員より説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、青森市を起点として東津軽郡豊田町に至る鉄道敷設工事は昭和十八年完成したが、翌十九年突然この施設を撤去され、二十一年に再度敷設の運びになつたが、遅々として進まない。ついで津軽半島の交通上多大なる利便を興える本区間の鉄道敷設工事を速やかに完成されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。

○田中(茂)政府委員 この青森、豊田間は第六十九議會、昭和十一年五月に資源開發のために建設費予算に計上されました青森、五所川原間鉄道の延長で、延長約二十七キロ、沿線一帯はほとんど國有林で、日本三大富林の一として有名な所であり、この区間は路盤工事は竣工いたしております。

段後再着手いたしましたけれども、予算、資材その他の關係から、工事を再度中止したところのおるような次第でございます。當局といたしましては、この鉄道についても速やかに工事を再開いたして、御希望に副いたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第四〇、雄武村、上幌内間植民軌道敷設の請願、伊藤君一君紹介、文書表番号第一〇九五号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、政府の一大施設たる緊急開拓事業により北海道紋別郡雄武村利用可耕地四千五百町歩の開発と、その奥地の同郡中幌内に通ずる村道沿線全域にわたる三万六千町歩の森林資源開發のため、雄武村より地方發達に沿ひ中幌内を経て上幌内に至る間に植民軌道を敷設されたいというのであります。

○島上委員長代理 本件に関する政府側の意見聴取は、本日はこれを留保いたします。

○島上委員長代理 次に日程第四一、大子、川尻間國營自動車運輸開始の請願、山崎君男君紹介、文書表番号第一一八号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

路は、交通量の多いにもかかわらず自動車、交通量の多いにもかかわらず自動車の便なく、沿道十方の住民はまったく困窮している。ついで該区間に國營バスの運輸を開始されたいというのであります。

○島上委員長代理 次に政府側の意見を聴取いたします。小幡政府委員。○小幡政府委員 大子から川尻に至ります五十キロの区間であり、現在のところは川尻寄りの方約二十キロ余りを残して、大子寄りの方は大半運休をいたしておりますので、不便はごもつとも存じます。しかし國營自動車を運行いたしますことは、目下の國內情勢で困難であります。この努力をいたしたいと考えております。

○島上委員長代理 本請願に対して何か御発言はありますか。——なければ、次に移ります。

○島上委員長代理 次に日程第三、北海道植民軌道建設請願の請願、正木清君紹介、文書表番号第七七二号を議題とし、紹介議員代理井谷正吉君より紹介説明を聴取いたします。

○井谷委員 本請願の要旨は、当別町開拓事業促進のための植民軌道建設計画は、昭和二十二年に引続き本年度さらに二十キロ建設設計中、積極の事情により実施困難とのことであるが、かくては食糧の増産、民生の安定、産業の振興上に重大なる影響を及ぼし、かつ建設費十キロが全然無意味となるから、本軌道の建設を継続されたいというのであります。

○島上委員長代理 本件に関する政府側の意見聴取は、本日はこれを留保いたします。本日はこれにて散会いたします。午後三時四十三分散会

〔参照〕 地方自治法第五十六條第四項の規定に基づき、海運局の増設に關し承認を求めたる件(内閣提出)に關する報告書

一、本件の要旨及び目的 本件は、新潟市、神戸市及び高松市に海運局官制による海運局を置くことについて地方自治法第五十六條第四項の規定により國会の承認を求めたものである。二、本件の承認理由 新潟市、神戸市及び高松市には従來海運管理が設置されているが、これらの地方はいずれも海運の中核地であるため、名ばかりは管理部とはいえ、その内容実質は、他の海運局と異なるところがない実状である。

よつて海軍行政機構を強化する必要上から、これらの管理部を海運局に昇格せしめることは、適當の措置であると認め、承認を與へべきものと議決した次第である。右報告する。

昭和二十三年六月二十八日 運輸及び交通 川野 芳滿 委員長 衆議院議長松岡陶吉殿

昭和二十三年十月二十六日印刷

昭和二十三年十月二十七日発行

衆議院事務局

印刷者 印刷局